

分布調査報告書

三刀屋町の遺跡Ⅳ

鍋山地区（禅定寺周辺）

1991年3月

島根県三刀屋町教育委員会

序

当初は平成元年度で終了する予定であった遺跡詳細分布調査が、実際に調査に入ると、数多くの遺跡が発見され、調査期間を延長し、全町4年の歳月をかけてようやく本年度完了する運びとなった。ことに鍋山地区は従来比較的遺跡の少ない地として捉えていたが、古刹禪定寺とその周辺が未調査ということもあって、予想外に時間を費した。

密教寺院禪定寺は、全国的に見られるように戦国時代においては格好の城塞として利用されたと思われ、盛時には42坊を数えたの伝承もあるが、いくつかの坊跡も確認でき、隣接した山城との関連等、本町の歴史を解明する上で今後課題を提供した。

なお、この遺跡詳細分布調査を終了するにあたり、各地区の古老の方々を中心に、歴史や文化財に関心をもつ人が積極的に協力し、情報を寄せられた。さらに、それぞれの地域別に、調査の完了の都度、調査報告会を行なったが、各地域とも多数の参加を得ることができ、熱心に質問されるなど、文化財に対する関心を高めることになった。

本町は遺跡の多い町である。それも縄文の昔より近世に至るまでとぎれることがない。また、町内に国道が2本通っている交通の要衝地でもある。その関係で開発も目白押しであって、文化財の保存と開発をめぐる問題も多い。このたびの遺跡詳細分布調査は、本町においては極めて時宜を得たもので、文化財保護行政を進める上で、開発との調和を図るよい資料として期待できる。

終りに、昭和62年度より調査実施以来、県文化課に並びに蓮岡法暲、杉原清一両氏の懇切丁寧なご指導に深く感謝申し上げます。併わせてこの調査の実施にご協力をいただいた地元関係者各位に厚く御礼申し上げ、調査完了のご報告に合わせ、刊行のご挨拶とする。

平成3年3月

三刀屋町教育委員会教育長

若 槻 喜 吉

例 言

1. 本書は三刀屋町教育委員会が、平成二年度国庫及び県費の補助を受けて実施した三刀屋町全地域及び昨年度調査が一部未完成であった禪定寺周辺の遺跡詳細分布報告書である。
2. 調査体制は以下の通りである。

調査主体者 三刀屋町教育委員会
教育長 若槻喜吉

調査指導者 蓮岡法暉（島根県文化財保護指導委員）
杉原清一（ ” ” ）
丹羽野裕（島根県教育委員会文化課主事）

調査員 板垣 旭（三刀屋町教育委員会文化財専門員）

事務局 谷戸邦夫（三刀屋町教育委員会教育次長）
太田昌人（ ” ” 社会教育係長）
杉原律雄（ ” ” 社会教育主事）
3. 調査成果は本書において分布図及び一覧表とし、大部分の遺跡については概略と図面をのせたほか、遺跡カードを作製して遺跡台帳とし、三刀屋町教育委員会と島根県教育委員会に保管する。本書の遺跡の概況については今回の調査が地表面観察によるものであり、過去に発掘調査をされた遺跡以外は私見をはさむと誤解をまねく恐れがあるのでできるだけ表面観察による客観的事実と文献記載事項、そして口碑伝承だけを記述した。なお遺跡番号は『島根県遺跡地図Ⅰ』（1988年）及び『三刀屋町の遺跡Ⅲ』（1989年）を踏襲した。
4. 本書および調査には主に「三刀屋町管内図」5千分の1を使用した。方位は磁北を示す。
5. 本書に記載した地名は『三刀屋城跡調査報告書Ⅲ』（1984年）に収録した全町域番付調査表ほか、地元伝承通称名を用いた。遺跡名もほぼ同様の方法でおこなったが、このほか屋号も用いた。
6. 現存する出土遺物についてはできるだけ保管者名を記した。
7. 本年度の調査は、昨年実施した鍋山地区において一部未完成であった禪定寺周辺を中心に、大字里坊、大字殿河内、大字乙加宮を再踏査したものである。したがって各遺跡は、これまで報告されてきた『遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』（1988年1月）『遺跡詳細

分布調査報告書Ⅱ』（1989年3月）『遺跡詳細分布調査等報告書Ⅲ』（1990年3月）と重複するものもあることをあらかじめことわっておく。また、本報告書は、これまでの一連の三刀屋町の『遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ～Ⅲ』の分布地図及び、遺跡一覧表を掲載することにより、三刀屋の遺跡の完結編としての性格を持つものにした。

8. 調査にあたっては、江角萬市、天喰義富、飯塚一郎、矢田重義、太田 実、市場一正、森田 稔、小林清美の諸氏に同行協力、助言を賜った。また地元鍋山地区の皆様には、多大なる協力を賜った。記して謝意を表明する。
9. 本文は調査指導員と県教育委員会文化課の助言を得て板垣が執筆した。遺物整理及び作図、製図、写真撮影は県教育委員会文化課の協力を得て主に板垣が行ない、小林清美の協力を得た。
10. 本書の分布図と一覧表に掲載した遺跡の大部分は、分布調査による地表面観察によって発見したものであり、埋蔵文化財はその性格上分布調査によってすべて網羅することは不可能である。したがって将来、空白地にも埋蔵文化財が発見される可能性がある。

目 次

序

例 言

遺跡分布図

遺跡一覧表 1

位置と環境 10

各地域の遺跡と概況 11

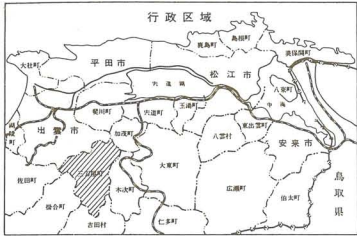
 大字里坊 11

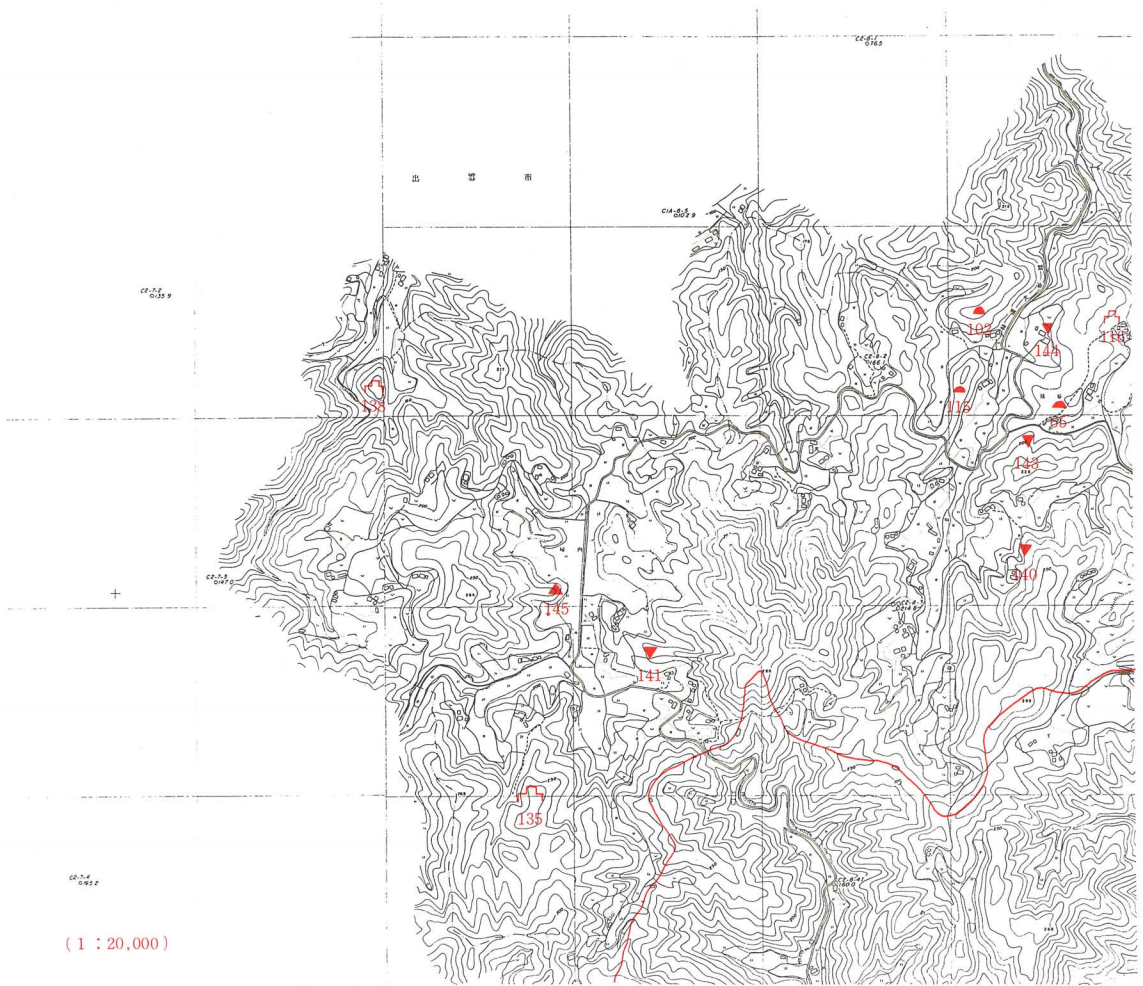
 大字殿河内 12

 大字乙加宮 15

小 結 24

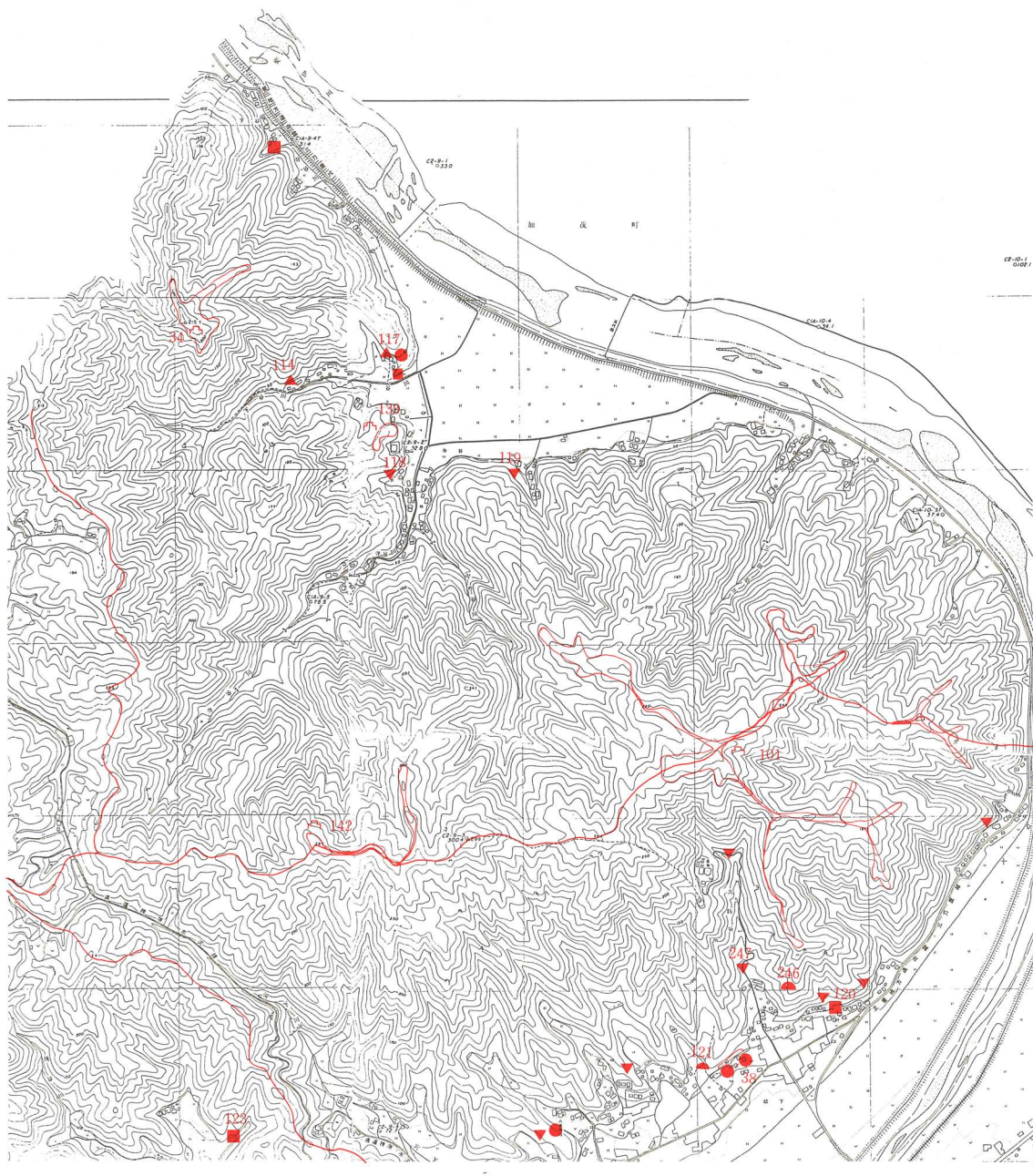
三刀屋町全図





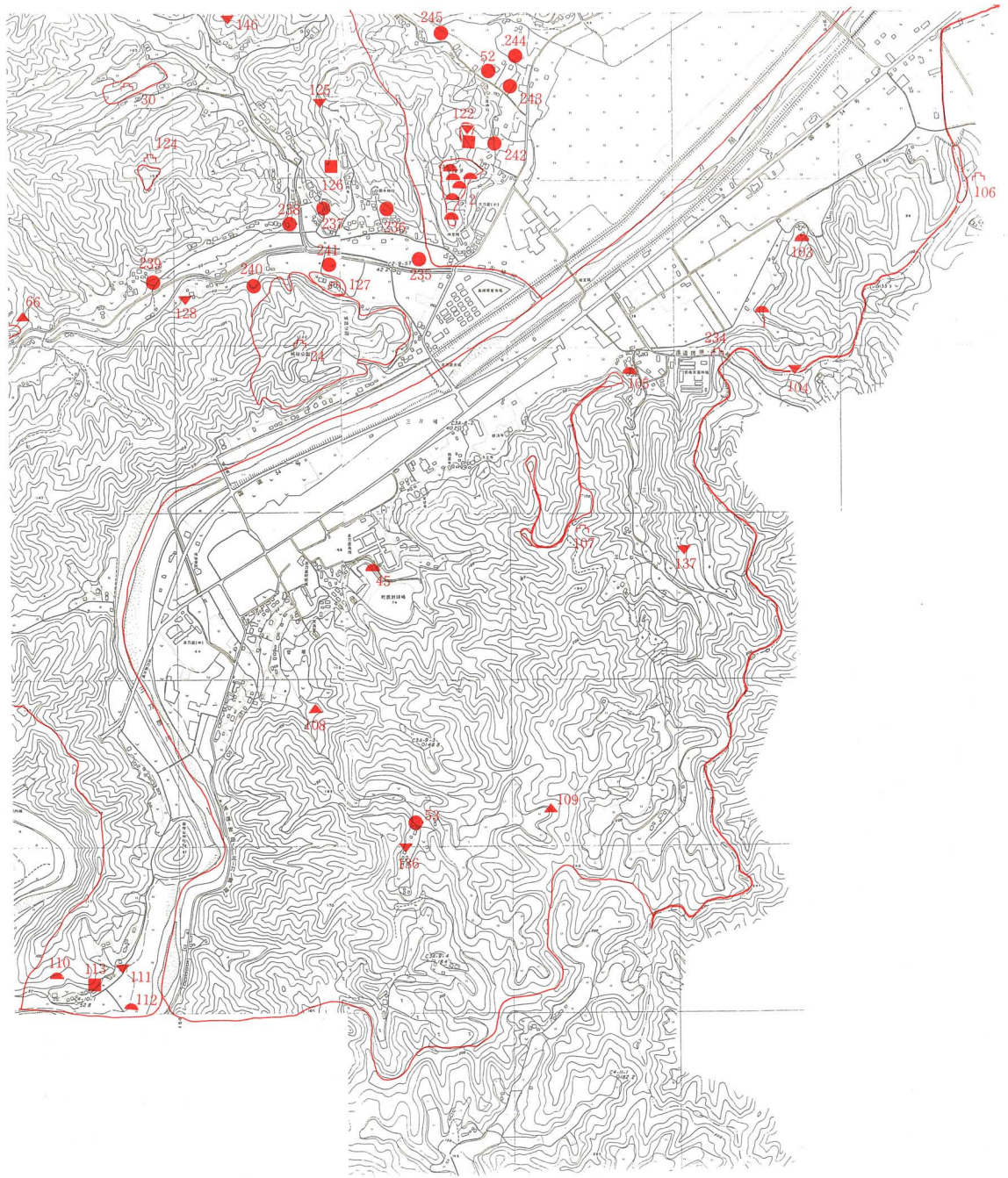
(1 : 20,000)

(1 : 20,000)

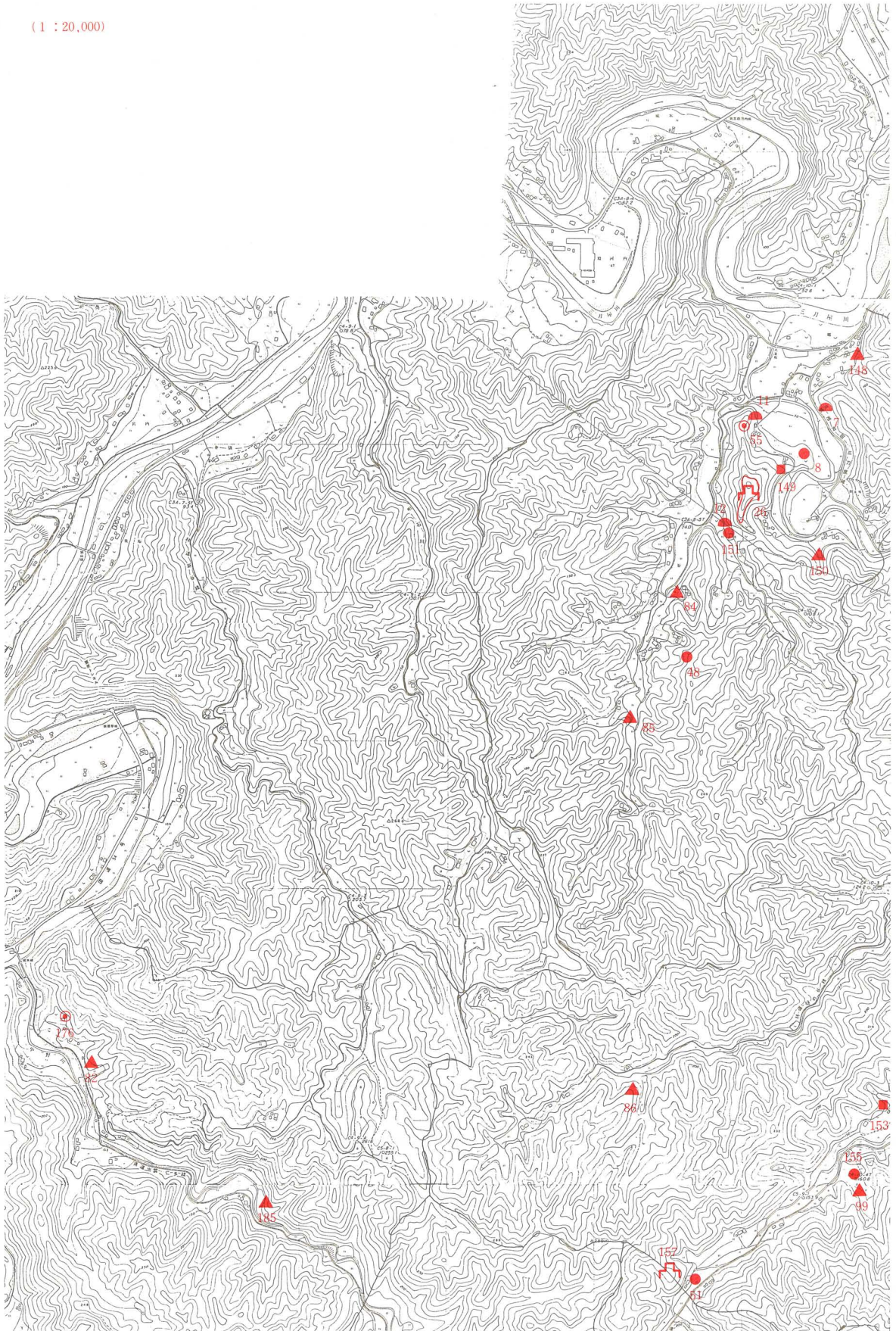




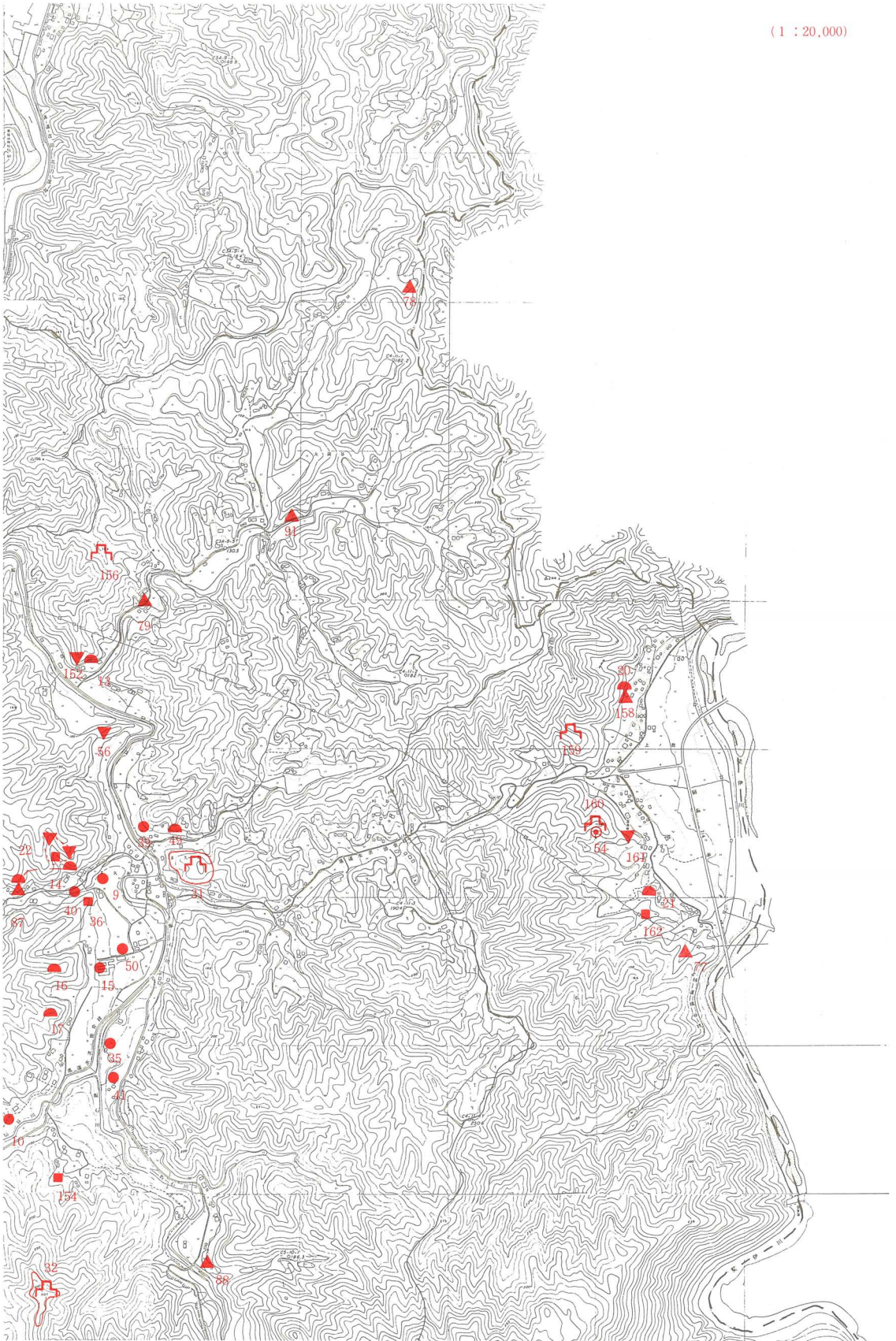
(1 : 20,000)

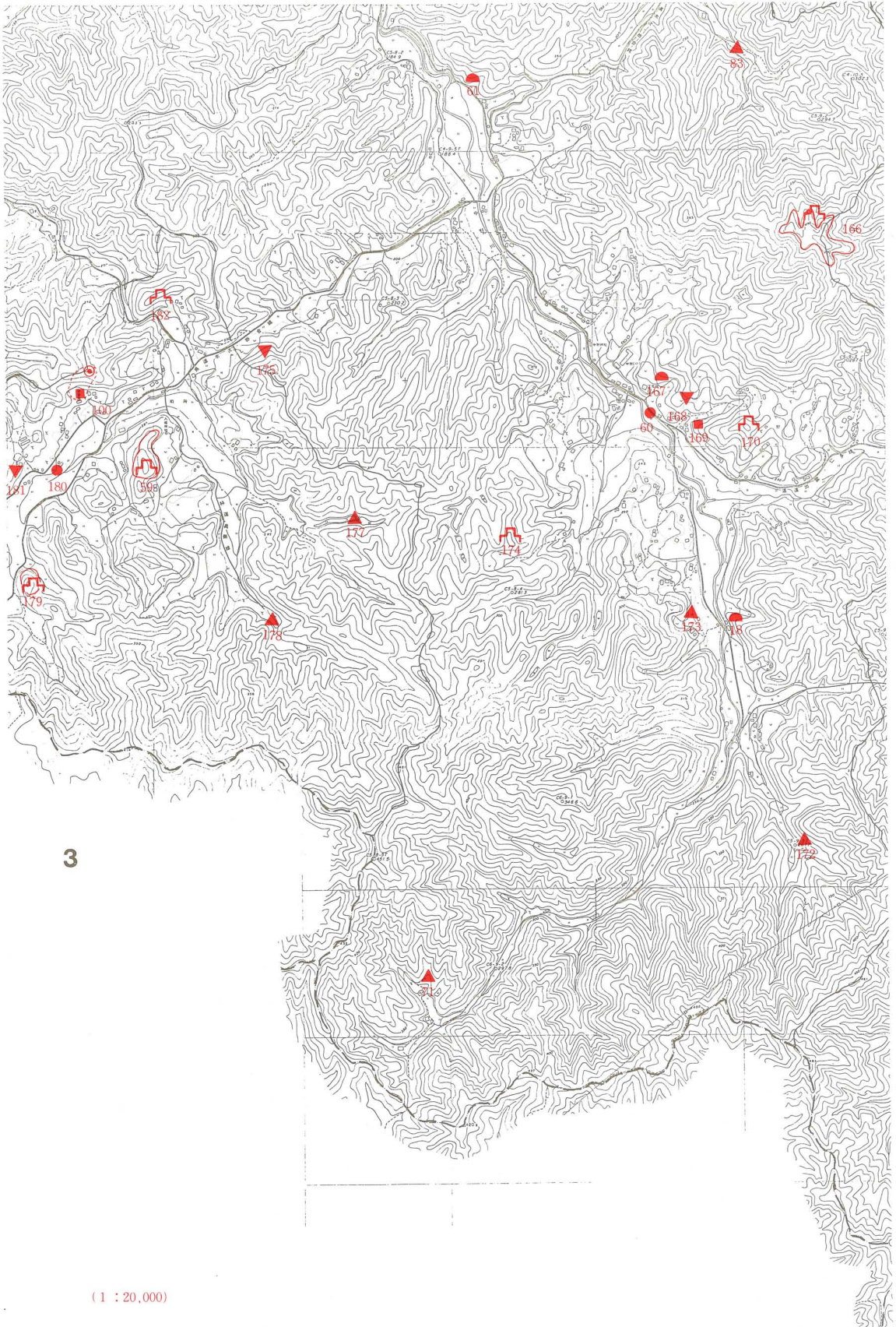


(1 : 20,000)



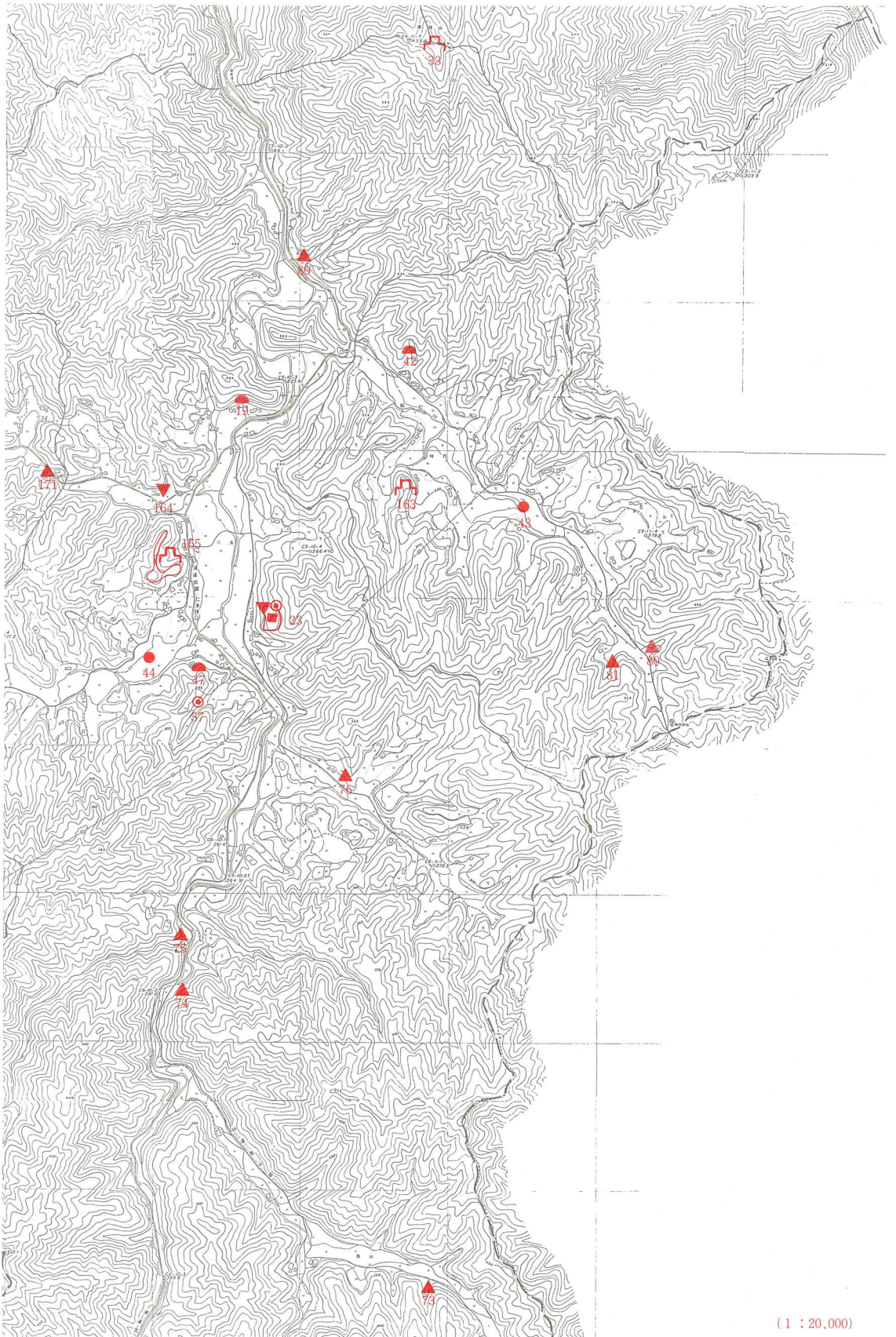
(1 : 20,000)



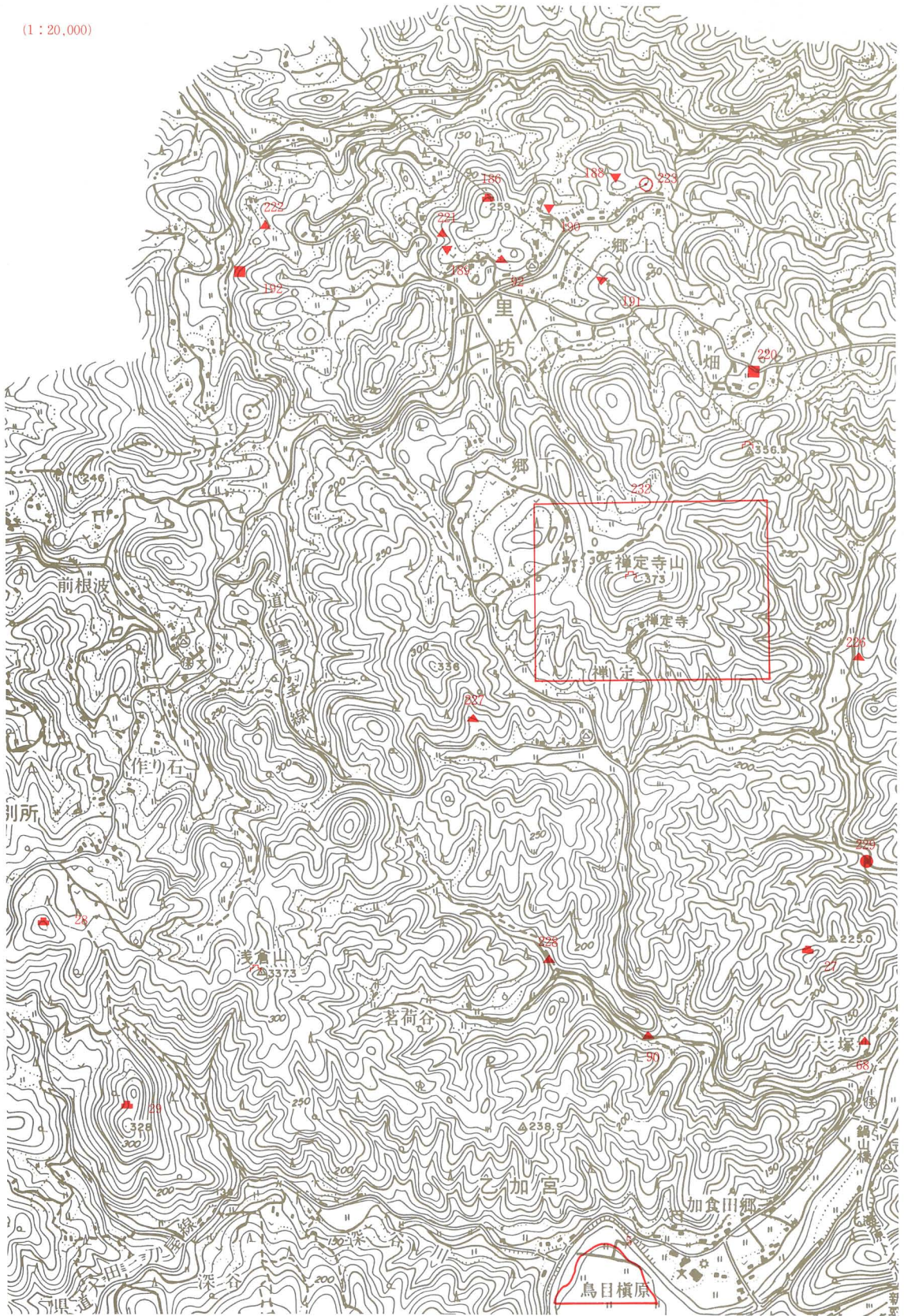


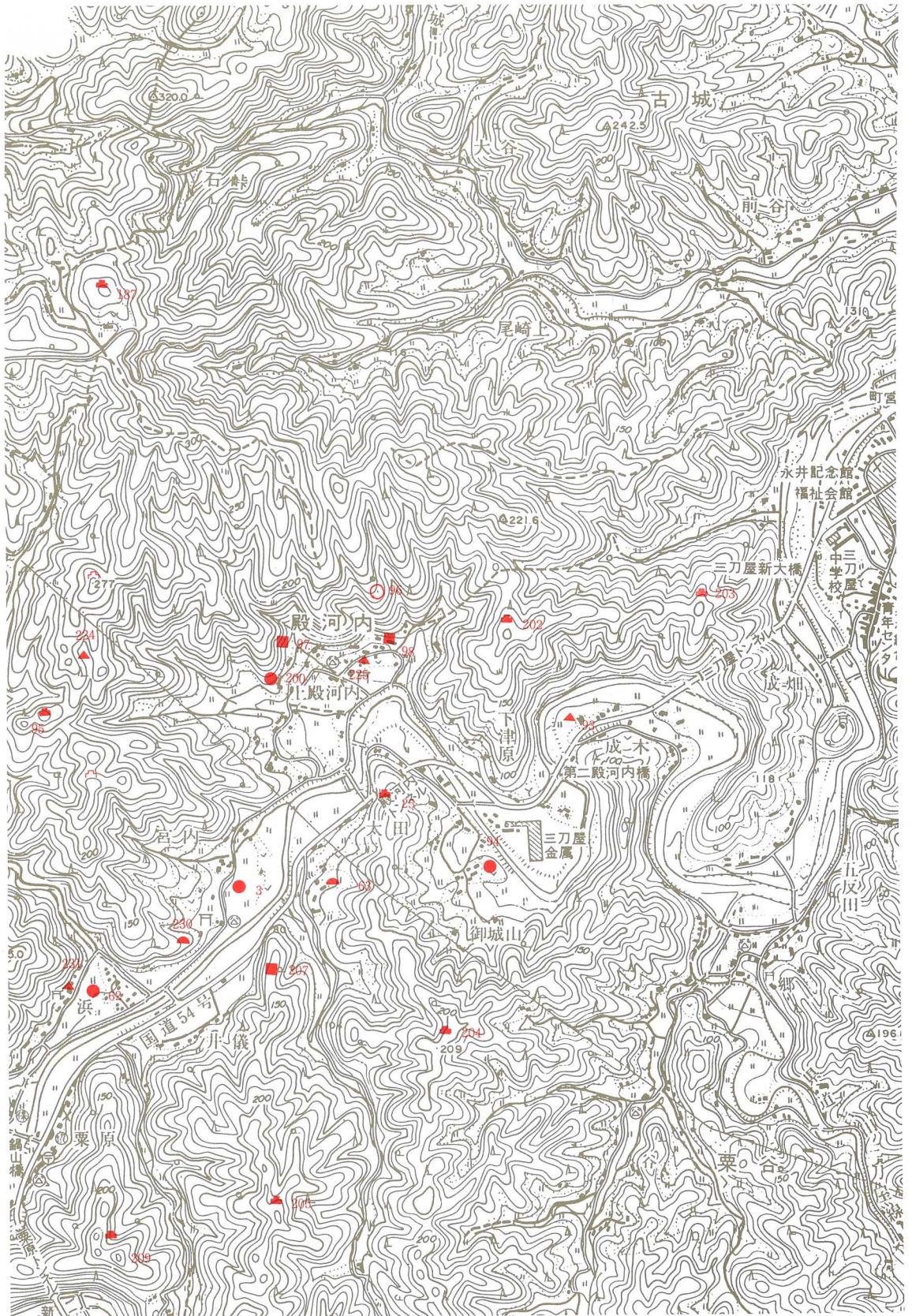
3

(1 : 20,000)



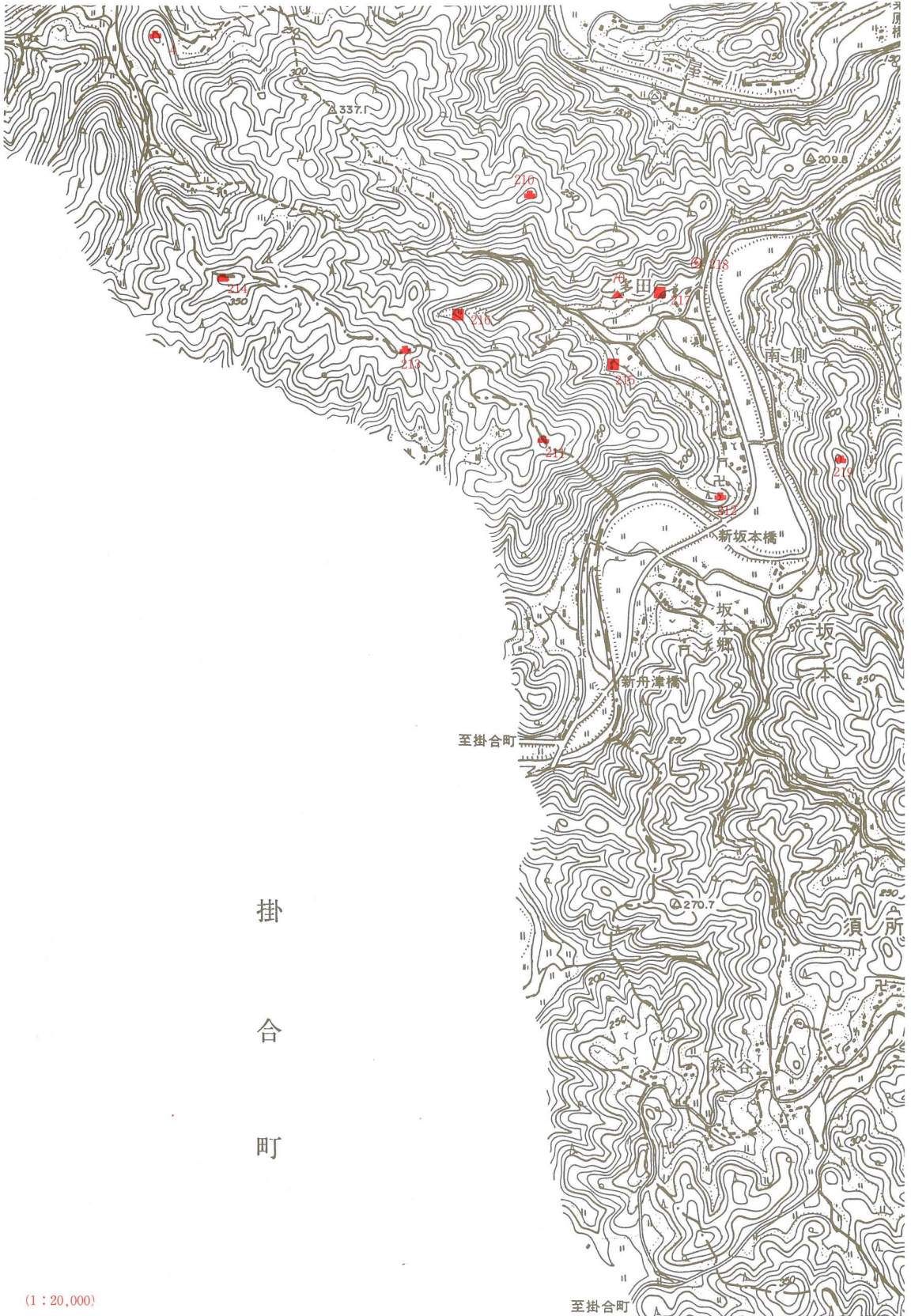
(1 : 20,000)







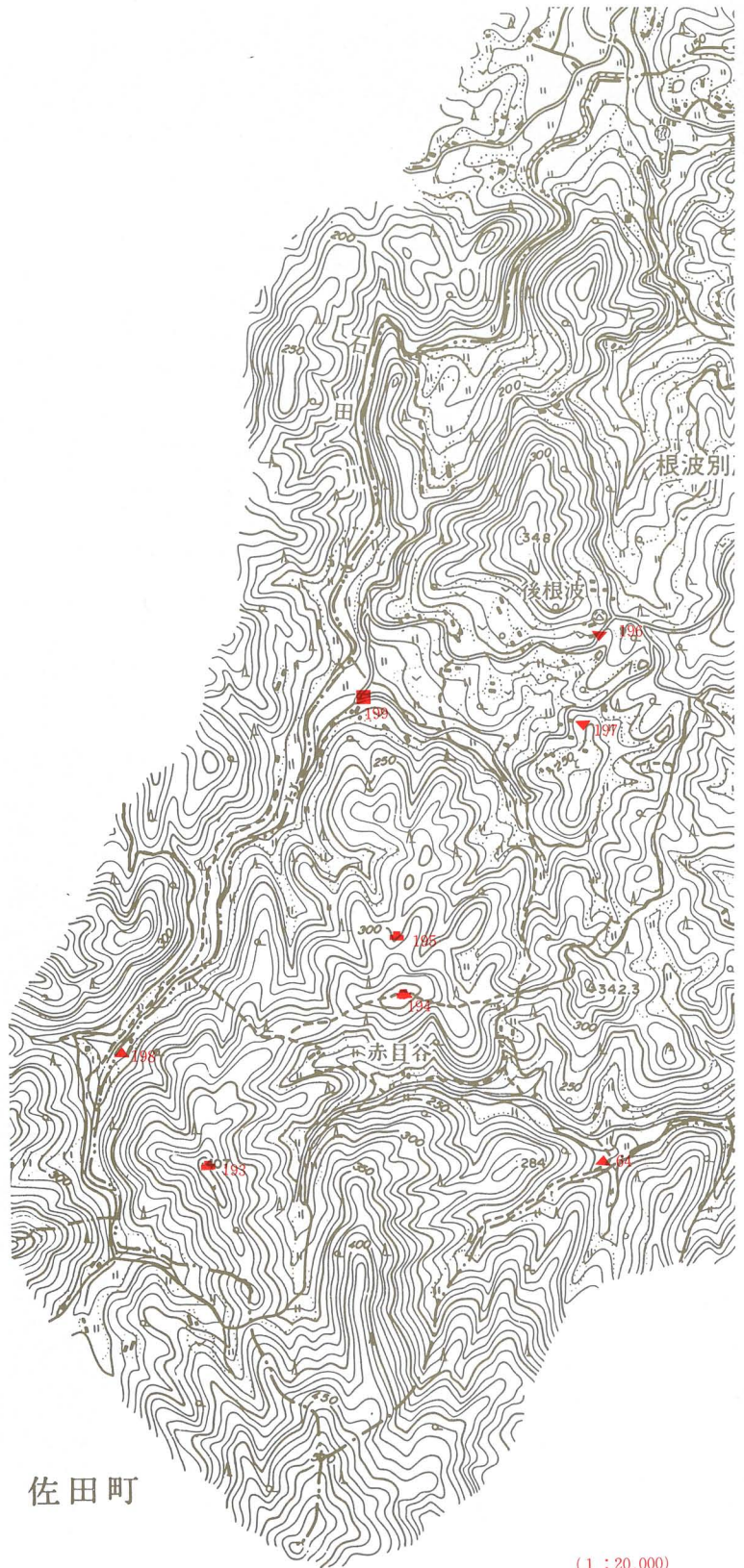
(1 : 20,000)



掛
合
町

(1 : 20,000)

至掛合町



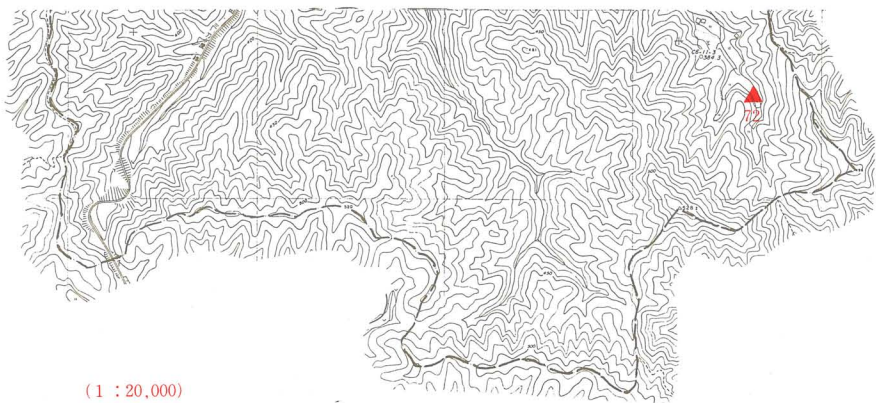
(1 : 20,000)



(1 : 20,000)



(1 : 20,000)



(1 : 20,000)

三刀屋町内遺跡所在地一覧

伊 萱

番号	種 別	名 称	所在地及び小字	現 況	遺 跡 の 概 況
34	城 砦	伊 萱 城 跡	三刀屋町大字伊萱967他	山 林	山頂付近削平段あり
139	"	堀 ノ 内 砦	" 895他	"	丘端部に削平段と切岸あり
118	古 墓	醐 醍 墓 古 墓	" 466	墓 地	大型五輪塔を含む古墓群
119	"	中 屋 谷 古 墓	" 287	"	五輪塔墓群25基分以上墓石集積
114	生産遺跡	俵谷たたら跡	" 562	畑・宅地	宅地により半分消滅、鉄滓散布
117	生産遺跡 遺物散布地	鍛 治 屋 遺 跡	" 571他	宅地・山林	宅地付近に鉄滓焼石上方山腹で古陶出土

給 下

38	遺物散布地	大 門 口 遺 跡	三刀屋町大字給下大門1329 北垣内1315	畑 地 田・県道	大門、石斧出土、北垣内須恵裏片散布(Ⅳ期)
52	"	宮 谷 遺 跡	" ?	田・県道	(消滅か、位置特定不能)
2	古 墳	松 本 古 墳 群	" 1726他	山 林	1号墳、前方後方50m、S38発掘調査 2号墳、円・径10m未掘、頂部に大仙碑あり 3号墳、前方後方墳・径50m未掘、頂部に五輪塔等あり 4号墳、小墳S38発掘調査、横穴式石室 5号墳、円墳か径10m、五輪塔20基以上(本堂の上) 6号墳、(破損か)(梅窓院墓地) 7号墳
6	横 穴	一 宮 横 穴 群	" ?	?	(桑園造成により消滅か、位置特定不能)
121	"	坂 中 横 穴	" 1332	山 林	崖面に2穴在ったが、ほとんど消滅
101	城 砦	峯 寺 山 要 塞 群	" 1505他	山 林	I～V群より成る尾根上に連なる郭群、拠点は峰寺 I群-峯寺上最頂部削平段約300m II群-中屋谷上の尾根に削平段約250m III群-三田原上の尾根に削平段約400m IV群-蛇ノ谷北尾根上に削平段約300m V群-蛇ノ谷南尾根上に削平段約500m
142	"	宮谷上砦・古道	" ?	山 林	峯寺・じゃ山間の尾根路とその間の物見郭
120	寺 社 跡	若 宮 跡	" 1570他	畑	地名伝承の社地、付近に古墓散在
122	古 墓	給 下 の 殿 様 墓	" 785 ?	畑	寺跡と隣接の大型宝篋印塔群
242	寺 跡	と 同 安 寺 跡	" 779	畑	
243	散 布 地	同 安 寺 遺 跡	" 829-3	畑	土師質土器糸切り底部片1点
244	"	龍 王 遺 跡	" 861	畑	土師器片3点
244	"	上 給 下 遺 跡	" 868	畑	須恵器杯片1点、土師器片1点
245	"	高 丸 遺 跡	" 915	畑	須恵器高杯片1点、他1点
246	古 墳	若 宮 古 墳		山 林	
247	古 墓	峯 寺 石 塔 群		山 林	

高 窪

遺跡番号	種 別	名 称	所在地(小字)	現 況	遺 跡 の 概 況	遺物保管者
65	古 墳	後 谷 古 墳 群	蓮 池 向	山 林	1号墳石棺あり・方墳 消滅 2号墳 ² / ₃ 残存・円墳 3号墳未掘・円墳 このほかにもあるか?	

102	〃	苗代迫古墳	苗代迫	〃	丘陵上円墳1基 直径6m	
115	〃	蓮池古墳	蓮池 1403	〃	丘頂に1基、5.5×4mの円墳か 五輪塔集積	
116	城 砦	古山砦跡	古山	竹林・他	3段あり 80×40m じゃ山城跡関連の砦 の一つ	
135	〃	古以後砦跡	古以後	山林	4段と付属小平面 居館跡か	
138	〃	竹ノ内砦跡	竹ノ内	山林	30×15m 簡易な物見曲輪	
140	古 墓	蛇ノ原宝篋印塔	蛇ノ原	原野	旧路沿い独塔 中世後期 他に縄文石皿あり	町 教 委
141	〃	井の迫の五輪塔	井の迫	山林	丘陵上の旧路沿い 3基以上あり	
143	〃	壁の内古墓	壁の内	〃	墓地の上により 数基分の石塔片あり	
144	〃	段家の上古墓	段家の上	畑・雑	台地の端 マウンド上に五輪塔2・宝篋印 塔1 やや古いか?	
145	製鉄遺跡	屋内鍛冶屋製鉄跡	鍛冶屋 926	宅地・畑	カジの他にも有?鉄滓散布 付近鉄穴流し跡も	

古 城

番号	種 別	名 称	所在地及び小字	現 況	遺 跡 の 概 況
110	古 墳	宮上ミ荒神塚古墳	三刀屋町大字古城1443	山 林	円墳径10m未掘、荒神木に硯奉納
112	〃	椿平荒神遺跡	〃 1370 ?	田	元石積荒神、圃場で消滅、須恵器多
24	城 砦	三刀屋尾崎城跡	〃 1165 他	畑・山林	三刀屋氏拠城、400×500m、県史跡
30	〃	元屋敷城跡	〃 383 他	畑地・山林	館後背城砦、40×80m、諏訪部氏
58	〃	三刀屋じゃ山城跡	〃 1791 他	山 林	独峰頂部1ha畝堀切岸天池等青磁中世陶
124	〃	中山砦	〃 1882 他	〃	簡易な物見郭
132	城 砦	大谷砦	三刀屋町大字古城	社 地	丘端の物見郭約100m
134	〃	鐘撞堂砦	〃	山 林	面田上尾根に削平段4段あり、見張砦か
127	館推定地	御蔵前館推定地	〃 1113	宅 地	城山南麓、館趾か、地中に石垣が残っていると
113	寺 社 跡	成木八幡宮跡	〃 1367	山 林	明治末年まで在った八幡宮跡地、50×80m
123	〃	梅窓院旧跡 (門所谷古墓)	〃 1976	山林・他	寺跡は概に耕地化している、山裾に小段あり、墓地か
126	〃	古城八幡宮跡	〃 2031	山 林	八幡宮跡伝承地、付近に古墳あり、30×100m
111	古 墓	成木宮前石塚	〃 1354	田	水田中の石積塚、鉄刀片出土の伝承あり、1×1m
125	〃	久円寺上古墓	〃 120	畑	石垣基壇2×11m、五輪塔、宝篋印塔、無縫塔等
128	〃	枇杷垣古墓	〃 1082	畑	畑地に石積塚が点在、栄安寺跡推定地の裏地帯
129	〃	尾崎神子ヶ畑古墓	〃 1002	畑	石積墓が点在、三刀屋縁りの塚であるとの伝承あり
130	〃	枝の前古墓	〃 671	雑	五輪塔片8基以上が集積
131	〃	石曲り奥古墓	〃 1795	山 林	集石墓や祭祀跡?も、銅銭(洪武通宝)や刀片出土
133	〃	面田上古墓	〃 797 ?	墓 地	五輪塔片あり
146	〃	堂床古墓	〃 1986 ?	山 林	石を並べた基壇あり、梵字を刻む宝篋印塔片あり
66	生産遺跡	金 屎 鉦	〃 559 〃 557	墓 地 畑地・他	県道、耕地等の整備に際し鉄滓出土、付近にカジ師の 墓と伝える古墓(五輪塔)あり、地名「金屎」
67	〃	鉦 谷 鉦	〃 933	田 ・ 他	かつて鉄滓が出土、現在は道敷及耕地化している
233	寺 院 跡	石 峠 権 現 跡	〃 72-4	田	乙加宮禪定寺北の大門跡
235	散 布 地	引 地 遺 跡	〃 83	畑	須恵器甕片3点
236	〃	八 万 坊 遺 跡	〃 156	畑	須恵器甕片2点、糸切り底部片(奈良時代以降)1点
237	〃	中 屋 垣 内 遺 跡	〃 450	畑	須恵器蓋片1点、須恵器片1点
238	〃	コ ン 屋 垣 内 遺 跡	〃 450	畑	土師器片4点、土師質土器片1点
239	〃	丸 山 遺 跡	〃 524	畑	須恵器高台付き木不片(歴史時代)1点

240	"	啓屋谷遺跡	"	1107-2	畑	須恵器甕片1点, 時期不明2点
241	"	御蔵前遺跡	"	1114	畑	土師質土器片1点, 時期不明2点

三 刀 屋

53	遺物散布地	滝谷遺跡	三刀屋町大字三刀屋700 他	山	林	山崩れ災害で出土, 石斧, 土器片等
45	古墳	宮垣古墳	" 字井ノ谷1611		雑	円墳直径約10m前方2/3が損壊, かつて付近にもあったとの事
1	横穴	要害横穴群	" 1245 他	山	林	崖崩れに際し須恵器出土, 遺構未確認, 消滅, 須恵器壺・勾玉
103	"	要害宅裏横穴	" 1253		宅地	宅地裏崖面に1穴残存, 付近にもかつてあった, 須恵器等Ⅳ期
105	"	地王横穴	" 1316		雑	崖崩れで須恵器出土, 遺構未確認, 消滅, 扁壺, 杯埴Ⅳ期
106	城砦	要害砦	三刀屋町大字下熊谷 ?	山	林	数段の削平郭あり, 先端部は土砂採掘で損壊
107	"	三谷砦群Ⅰ	三刀屋町大字三刀屋1571 他	山	林	字地王から字三谷, 蛇ノ谷へかけてⅠ~Ⅲ群の小削平郭群が尾根上に連なる, 全長800m
		"Ⅱ	" 1579 他		"	
		"Ⅲ	" 1574		"	
104	古墓	要害の首塚	" 1282		雑	稜線上の削り出し三角形マウンド, 地王峠の戦いの死者の首塚と伝う
136	"	滝谷古墓	" 702	山	林	宅地裏~山裾に埋設していた五輪塔, 宝篋印塔片の集積
137	"	三谷古墓	" 1350 他		畑	現況畑地, 開畑に際し, 五輪塔をまとめ埋納したとのこと。
108	生産遺跡	萱原鉦谷たたら	" 1636 他		畑	地名鉦谷, 小谷入口付近鉄滓散布地, 現在埋めたてて畑地, 50×70m
109	"	滝谷横山たたら跡	" 764		田	谷奥深い支谷部, 鉄滓散布ありとの事, 現況荒廃水田
234	砦跡	地王砦跡	" 1288-5 他		宅地	尼子・毛利の激戦地

粟 谷

遺跡番号	種別	名称	所在地(小字)	現況	遺跡の概況	遺物保管者
8	散布地	粟谷遺跡	向田	水田	縄文~古墳時代 圃場で土器・石器多数出土 消滅	重富福太郎
48	"	かいろく遺跡	かいろく	山林	土器出土地 横穴か	中学校?
151	"	城ノ尾下ノ段遺跡	下ノ段 202	畑	古式土師片出土 部分発掘で柱穴等	町教委
7	横穴	粟谷横穴群	掛ノ前	山林・他	A群3穴 B群1穴 粟谷神社の下・上にあ	町教委
				山林・道	り	
11	"	大年横穴群	大年	山林・道	道路法穴に2穴あり 未掘	
					他にも有か?	
12	"	粟谷谷横穴	城ノ尾	水田	水田造成で消滅	若槻栄
26	城砦	粟谷城跡	城ノ尾	山林	山城 200×25m 南へ下降する郭群破損 天文年間?	
84	製鉄遺跡	金井子鉦跡	金井子	畑・牛舎	鉄滓散布 20×20m 敷地造成で破損 時期不明	
85	"	城木谷鉦跡	城木谷	水田	のろ大塊あり 工事で消滅か 近世	
148	"	不動堂鉦跡	戸井谷	畑	丘麓台地にあり 12×10m 鉄滓散布 炉材スサ入り	
150	"	カナクソ鉦跡	カナクソ	水田	山裾部 水田法に断面がみられる 炉材スサ入り	

149 55		法 尺 寺 跡 大 年 経 塚	法 尺 寺 大 年 寺	山 林 墓 地	寺跡であろう 小堂 五輪塔あり 一石経塚 墓地中央にあり	
-----------	--	--------------------	----------------	------------	---------------------------------	--

多 久 和

9	散布地	宮 田 遺 跡	宮 田	水田・ 史跡公園	縄文時代の墓地等 埋葬他土器・理器県指定 他に古墳時代住居等	町 教 委 重 富 福 太 郎
10	集落遺跡	上 口 遺 跡	船ヶ 迫	水 田	圃場工事で礎石列あり 土器出土 消滅	
15	散布地	古 殿 遺 跡	古 殿	水田・校地	飯石小学校付近 縄文~中世各期 中世館跡も	町 教 委
35	〃	飯石神社遺跡	飯石神社	社 地	須恵Ⅳ期出土	重 富 福 太 郎
39	〃	大神谷遺跡	浮 田	畑	弥生土器片?出土	
40	〃	森谷川遺跡	森 谷	川・畑・田	縄文~弥生石器多数(環状石斧, 磨石斧, 石 皿他)	重 富 福 太 郎 町 教 委
41	〃	飯石神社上遺跡	京 南	神社飛地	須恵Ⅳ期壺出土	重 富 福 太 郎
50	〃	京 殿 遺 跡	京 殿	水 田	石斧・縄文・須恵・土師片多数包含 圃場で消滅	重 富 福 太 郎
51	〃	福谷川原遺跡	福谷川原671	宅 地	石斧2点出土	重 富 福 太 郎
155	〃	湯舟遺跡	湯 舟	水 田	勾玉 須恵器片出土(消滅した横穴か?)	宮 崎 頼 枝
13	横 穴	大倉口横穴群	大 倉 口	山 林	2穴あり 2号穴消滅か	
14	〃	森谷横穴群 A群	森 谷	〃	3穴あり 1号で須恵蓋杯・杯・埴 3号未掘	重 富 福 太 郎
					1穴 メノウ勾玉 刀子 須恵器片 人骨出土	
16	古 墳	古 殿 古 墳	古 殿	〃	丘陵端 円墳 径7m 墳頂に石あり	
17	〃	古 殿 今 宮 古 墳	古 今 宮	〃	丘陵端 円墳 径7m 墳頂に石あり	
49	横 穴	大 神 谷 横 穴	杉 廻	私 道	1穴 消滅 須恵高杯出土	杉 原 栄 次
31	城 砦	多 久 和 城 跡	城 ノ 尾	山 林	100×120m 丘山城 1~7連郭式 土塁・堀切有	
32	〃	福 谷 城 跡	福 谷	〃	山頂の城 500×300m 3支郭群22郭 堀切・土塁	
33	〃	高 瀬 山 城 跡	小 原 谷	〃	山頂の物見郭か 削平面 15×35m 単郭	
156	〃	梅坊砦(寺院)跡	梅 坊	畑・山林	大蔵地区の下口の城戸砦か 寺院跡も	
157	〃	福谷川原上砦跡	福 谷	山 林	丘頂 20×15m 塹壕~土塁のみ 見張り台か	
56	古 墓	清名五輪塔群	古 寺	〃	多久和の下口城戸 塔姿良好約30基 寺跡も?	
152	〃	大倉口五輪塔	大 倉 口	〃	古墓か 塔片が埋没していた	
78	製鉄遺跡	長戸呂鉦谷鉦跡	長 戸 呂 鉦 谷	〃	鉄滓散布地 圃場で消滅か	
79	〃	道の下鉦跡	道 の 下 2176	畑・道	鉄滓散布 上方に炉床残存か	
86	〃	樋ノ谷鉦跡	樋 ノ 谷	山 林	鉄滓あり 段地形は炉床か 近世?	
87	〃	森谷鉦跡	森 谷	畑	鉄滓・炉壁片(スサ入り) 石造の金屋子神 祠に初銑	
88	〃	小 原 鉦 跡	小 原	山 林	野だったら? 金屋子神木あり 遺構残存か	
91	〃	大 日 鉦 跡	大 日	畑・道	鉄滓散布	
99	〃	湯 舟 鉦 跡	湯 舟	畑	鉄滓散布 金屋子神木・無縁墓あり 近世古 奥で寺跡は崩壊 近くに堂あり	
22	寺院跡	法 泉 寺 跡	法 泉 寺	山 林	印塔・五輪塔	
154	〃	玉 正 寺 跡	玉 正 寺	畑	付近に堂あり 小鐘に銘あり	
153	〃	瑞 泉 寺 跡	瑞 泉 寺	畑	ほとんど崩壊 付近に古墓あり	
36	神社跡	託 和 神 社 跡	宮 ウ 子	山 林	明治44年飯石社へ合祀 石段等残存 敷地70×50m	

上 熊 谷

20	古 墳	岩 広 古 墳	岩 広	宅 地	横穴式石室 須恵Ⅲ・Ⅳ期 馬具・鏃・刀子出土	町 教 委
21	横 穴	善 王 寺 横 穴	善 王 寺	"	水害で発見 消滅 須恵・刀出土したとのこと	
160	城 砦	上熊谷蛇山城跡	蛇 山	山 林	丘陵端 200×60m 6郭 堀切 主郭に経塚有	
159	"	上熊谷秋葉山砦跡	中 村 奥	境内・山林	秋葉社を祀る 2段あり 物見台	
161	古 墓	林 迫 荒 神 古 墓	林 迫	荒 神 塚	丘端の塚 五輪塔 龕入宝篋印塔	
77	製鉄遺跡	後 の 谷 鉦 跡	後 の 谷	山 林	谷間の小テラス 若干の鉄滓を認む 遺構不明	
158	"	岩 広 製 鉄 遺 跡	岩 広	畑	小さな鉄滓が若干散布 遺構不明なるも鉦跡である	
162	寺院跡	善 王 寺 跡	善 王 寺	荒 地 ・ 畑	18×25mの削平地 かつて観音堂・積石墓あった	
54	経 塚	熊 谷 山 経 塚	蛇 山	山 林	蛇山城跡主郭頂部にあり 雲泉寺に関係か	

神 代

43	散布地	神代川原遺跡		?	石斧出土地(現地確認不能)	小田定雄(町寄託) 高尾 繁 延
42	横 穴	神 代 横 穴	砂 子 田	山林・林道	1穴 須恵Ⅳ期 丹塗土師器出土	
163	城 砦	神 代 砦	尚 免 470	山 林	丘陵端 主郭と4段の付属曲輪 物見砦か	
80	製鉄遺跡	し ょ う ぶ 鉦 跡	し ょ う ぶ	?	(現地確認不能)	
81	"	神 庭 鉦 跡	神 庭	草 地	谷間の舌状地 鉄滓・炉材片散布 遺構残存か	

六 重

44	散布地	西 六 重 横 穴		畑 ・ 水 田	水田地帯か 須恵器出土地という (現地確認不能)	六 重 飯 石 神 社
19	横 穴	六 重 横 穴	大 屋	山 林	穴観音の石組みあり はたして横穴か	
47	"	六重飯石神社境内横穴	郷 戸	境 内	須恵蓋杯1合Ⅲ期 1穴のみか 埋没	
165	城 砦	六 重 城 跡	蛇 谷	山 林	馬蹄形の尾根上に3群の郭配置 200×170m 土塁・竖堀・堀切り	
164	古 墓	赤 栗 古 墓	赤 栗 54	畑	龕入宝篋印塔1 付近に『穴地蔵』の石組みあり	
72	製鉄遺跡	鳥 越 鉦 跡	鳥 越	水 田	(現地確認不能)	
73	"	奥 山 軍 鉦 跡	奥 山 軍	水 田 ・ 畑	斜面に鉄滓散布 上の畑に遺構残存か	
74	"	真 砂 谷 鉦 跡	奥 山 真 砂 谷	茶 園	道路沿いの畑に鉄滓散布	
75	"	金 蔵 鉦 跡	金 蔵	水 田 ・ 他	丘陵端 70m以上鉄滓散布 近世の大型鉦跡か	
76	"	栗 谷 鉦 跡	栗 谷	?	(現地確認不能)	
89	"	六重大鍛冶屋鉦跡	大 鍛 冶 屋	宅 地	広く鉄滓散布 大鍛冶も併存か 大部分は消滅か	
23	寺院跡		金 栗 寺	茶 園 ・ 山	150×50m 削平地2段 一石経塚 五輪塔・宝篋印塔あり	
57	祭祀遺跡	策 霊 山 古 墓	迫 奥 256-3	旧 畑	石鉢・土師質土器 銭貨 鉄片出土 消滅 中世の修法塚か	須 山 伊 三 郎

(他に六重地内出土とみられる石器(磨石・叩石・石斧・石棒)あり。——子安観音堂・須山優保管)

中 野

60	散布地	紙屋遺跡	紙屋	水田	須恵・土師片出土 水田下に包含層あるか	正 藏 坊
18	横穴	堂々横穴	堂々	山林	崩れて埋没 2穴か 須恵Ⅳ期の壺・杯・碗 耳環	正 藏 坊
61	"	東下谷横穴群	東下谷	道路法面	1～6号穴 1～3号は古く開口 4～6号人骨・須恵器Ⅲ～Ⅳ期 刀・玉類	町 委 委
167	"	正藏坊横穴	紙屋	畑	1穴 崩壊 須恵Ⅳ期 壺・甕片	正 藏 坊
174	城砦	堂々蛇ノ迫砦跡	堂々	山林	1号方8.5m 2号辺9.0m 尾根上にあり	
166	"	中野鳥屋ヶ丸城跡	北畑・他	"	山頂の本城 300×200m 5支郭群より構成 合計67郭あり 南裾に麓館あり	
170	"	トチノ木砦跡	紙屋	山・竹林	丘陵端 馬蹄形に小郭を配す 鳥屋ヶ丸城 出張砦	
168	古墓	向光寺古墓	紙屋	畑	宝篋印塔残欠 下方に堂あり	
175	"	比久尼塚	西下谷	山林	五輪塔2・宝篋印塔片 伝寺跡の地続き 近世初?	
71	製鉄遺跡	堂々鉬跡	堂々	畑(荒廃)	30×20m 鉄滓多量集積 鋳大塊あり 明治初年まで	
83	"	中野杉谷野鉬群	東下谷杉谷	水田	(圃場整備により現地確認不能) 炉壁材スサ入り	
171	"	六重峠鉬跡	紙屋 733	畑	7×15m 鉄滓・炉材(スサ入)多数散布 中世?	
172	"	堂々向谷鉬跡	堂々	山林	圃場水田の下に鉄滓あり	
173	"	中竹鉬跡	堂々	畑	崖面に鉄滓堆積 遺構不明	
169	寺院跡	久光寺跡	紙屋	"	丘陵端 40×25m 畑から礎石(径17cmの柱 穴)出土	永 井 政 吉

須 所

180	散布地	須所土居遺跡	土居	畑	微高台地・須恵・土師器細片散布	町 教 委
59	城砦	須所八幡山城跡	中山865・866	山林	独立丘陵 200×100m 主郭・付属曲輪・土塁・他	
179	"	志源京砦跡	志源京	"	小丘陵端 50×50m 郭3・堅堀13本 後背部消滅	
182	"	城ノ谷砦跡	城ノ谷	道・山林	丘陵端 100×50m 堀切2・郭2以上 道で破損	
181	古墓	折屋垣内古墓	折屋垣内	墓地	旧荒神塚 道路で消滅 五輪塔残欠	
177	製鉄遺跡	堤尻鉬跡	堤尻西平	水田・他	かつて鉄滓散布 道路・圃場で消滅か	
178	"	奥山本谷鉬群	奥山本谷	旧水田	谷間の奥3か所あり 鉄滓・炉材多数散布	
100	寺院跡	妙吉寺跡	寺床	畑・山林・他	60×80m 礎石列・碑 背陵上に一石経塚あり 法華宗本坊として著名	

坂 本

183	散布地	坂本宮ノ前遺跡	宮ノ前	畑	20×20m? 土師器片 鉄滓もあり 内容不明	
82	製鉄遺跡	桧杉谷鉬跡	鉬	荒畑	20×50m 鉄滓・炉材多数散布 近世の大型鉬跡か	
185	"	桧杉谷鉬床鉬跡	鉬床	畑	30×40m 丘麓台地 鉄滓・炉材散布 野鉬様式か	
176	祭祀遺跡	広ノ下荒神塚	広ノ下	山林	石鉢・鎧大袖・土師質土器・宗銭出土・消滅	渡 部 繁 義

184	祭祀遺跡	的場積石塚	胡麻畑？	"	丘陵最頂部 6×12cmの集石(川石)塚矢の 的と伝う
219	城砦	南側城跡	高瀬	山林・竹林	200×100m 郭 堀切

里坊

遺跡番号	種別	名称	所在地(小字)	現況	遺跡の概況
186	城砦	高城城跡	高城	山林・竹林	山頂に郭1(館跡)
187	"	向屋敷砦跡	畑	山林	(200×200m)山頂に郭
188	古墓	松喰古墓群	松喰	草地	丘陵端,五輪塔5以上,宝篋印塔2以上の石片
189	"	中古墓	堂	畑・山林	五輪塔片,宝篋印塔片
190	"	若宮古墓	若宮	畑	五輪塔片,地すべりで流される
191	"	郷上古墓	宮ノ	脇	宝篋印塔残欠
192	寺院跡	法王寺仁王門跡	仁王上	草相	法王寺(出雲市)の仁王門跡,礎石
92	窯跡	飯国瓦窯跡	中居	水田・畑	初窯大正始め頃,最終窯昭和33年頃最盛期従業員10人
220	寺院跡		上北	草地	
221	寺院跡	花立十王堂跡	花屋	畑	西の大門跡
222	古墓	飯塚正夫宅上山古墓群	観音堂	山林	五輪塔残片2基以上
223	鏡出土地	上谷尻遺跡	郷上	畑	和鏡出土の伝承あり

根波別所

28	城砦	茶白山城跡	茶白山	山林	主郭に土塁,郭,帯郭,腰郭,天然の大空掘
193	"	奥赤目谷城跡	赤目谷	"	(300×250m)郭
194	"	赤目谷砦跡	赤目谷	"	(50×40m)郭
196	古墓	大敷古墓群	蛇喰前	竹林	丘陵先端,五輪塔片と宝篋印塔片が埋没している
197	"	道の上五輪塔	道の上	墓地	五輪塔2
64	製鉄遺跡	恩後尻鉦跡	恩後尻		鉄滓散布
198	"	金床鉦跡	金床	水田 廃家	鉄滓,炉壁材片散布
199	神社跡	剣神社跡	堂ノ奥	水田	明治24年に遷座
195	館跡	佐右衛門屋敷跡	佐右衛門屋敷	山林	赤目谷砦のある丘陵の北麓 30×50m

殿河内

200	散布地	上殿河内遺跡		水田	石斧1,須恵器,土師器片
63	横穴群	太田横穴群	引越		2穴,須恵器,馬具,鉄斧
25	城砦	御城山城跡	山根	山林	(200×100m)郭 堀切
95	"	殿河内奥城跡		山林・竹林	(200×100m)郭,腰郭,堀切
202	"	下殿河内城跡	ソウ谷坂	"	(100×50m)郭,堀切
203	"	大櫃山城跡	大櫃	"	(450×100m)郭,腰郭,堀切
204	"	高丸砦群	高丸	"	(1,500×300m)郭,堀切
205	"	方寺砦跡	狼岩	山林	(600×300m)郭,堀切
206	"	陣高丸城跡	梅ノ木谷	山林・竹林	(800×500m)郭,堀切
97	寺院跡	正福寺跡		宅地	宝篋印塔,五輪塔
98	"	永昌寺跡		畑	延宝年間に開基,浄土宗
207	"	方寺跡	狼谷	山林	詳細不明
96	鏡出土地	清水荒神塚遺跡		山林	埋納拵2,鉄鍋1,刀3,和鏡1,土師質土器22,円礫3
94	住居跡	殿河内遺跡		畑	掘立建物跡480×70m,土師器,須恵器, 陶磁器,土師質土器,鉄滓
93	窯跡	殿河内練瓦工場窯跡		畑荒地	煙突1,昭和25年頃約5年間操業

208	製鉄遺跡	札場道尾鉬跡	札場道尾	宅地	鉄滓散布
224	鉬跡	殿河内奥野鉬跡		山林	野鉬の伝承あり
225	古墓・寺跡	清水十王堂跡		畑	禪定寺東の大門跡

乙 加 宮

3	散布地	宮内遺跡		水田	縄文早期～中世 (100×350 m)
5	"	榎原遺跡	榎原	"	縄文早期～縄文後期 (150×170 m)
62	"	浜遺跡		"	縄文早期～中世 織維土器
4	城砦	平家城跡	足谷山	山林	(40×10 m) 丘陵頂上に小郭
29	"	朝倉山城跡	朝倉	山林・竹林	山頂に郭 2
209	"	栗原城跡	焼ヶ	谷	" (500×500 m) 郭 掘切
210	"	鳥目城跡	鹿ヶ	谷山	林 (1000×600 m) 郭 掘切
211	"	上乙多田城跡	皆	平	" (600×200 m) 郭
212	"	休場砦跡	休	場	" (150×50 m) 郭 掘切
213	"	長勝寺砦跡	本	谷	" (200×100 m) 狼煙をあげた伝承あり
214	"	本谷城跡	本	谷	" (200×100 m) 郭
27	城砦	大塚山城跡	や	ブ	谷山林 (虎口 1 ?)
68	製鉄遺跡	金屋子鉬跡	金子	子	畑荒地 鉄滓散布
70	"	こつて鉄鉬跡	西	ヶ	平水田 近世 鉄滓散布
90	"	鉬畑鉬跡	銀	畑	畑 鉄滓散布
215	寺院跡	寺屋敷遺跡	皆	平	畑 (34×12 m) 長勝寺の最初の移転場所 (近世)
216	"	長勝寺跡	寺	床	山林・竹林 中世～近世? 円通寺の末寺、鱈口出土
217	"	客土寺跡	客	土	畑 小堂
218	祭祀遺跡	客土神社	段	床	山林 露出した9×8 mの岩盤、乙多田地区の氏神
226	鉬跡	浜奥川鉬跡	保	坪	山林 鉄滓多量に分布
227	古墓	毛利秀麻呂墓跡	深	田	墓地 古墓、大宝二年の銘あり
228	鉬跡	茗荷谷鉬跡	茗	荷	谷山林 詳細不明
229	散布地	浜奥川石斧出土地		浜	川河 石斧 1 出土
230	古墳	下宮内古墳	柄	木	山林 円墳 2 基
231	古墓	石飛忠良宅横古墓	井	手	ノ 畑 五輪塔 2 基以上
232	寺院跡	禪定寺下遺跡	禪	定	山林・竹林 坊跡多数

位 置 と 環 境

今年度分布調査を実施した三刀屋町鍋山地区は、現在の大字里坊・根波別所・殿河内・乙加宮の各地区を含み、三刀屋町の西部にあたる。この地域一帯は奥出雲に源を発する斐伊川の支流、三刀屋川の流域であり、随所に肥沃で平坦な段丘地形が形成されており、その段丘上に点々と遺跡の存在が認められる。これらの遺跡の中には縄文時代から人々の生活の場として重要な位置を占めると考えられるものも多い。しかし1980年代にあいついで進められた圃場整備によって多くの遺跡が明確な記録を残さないまま破壊されたことは、まことに残念である。この整備工事の際に発見された遺跡として浜遺跡の縄文土器片の中に、早期後葉の植物繊維を混入したもの（内面二枚貝による条痕を持つものと、ナデのもの）、後期初頭の縄文地に細めの沈線を施したもの（中津式併行か）、晩期の口縁外面下に突帯を貼付け、ヘラ状工具で刻目を入れたもの等が確認されている。また榎原遺跡からは、早期末から前期の二枚貝による条痕をもつものや、中期後葉の撚糸文を施すもの（里木Ⅱ式）、後期前葉の沈線間に縄文を施したもの（福田Ⅱ式）、後期中葉のいわゆる縁帯文土器（崎ヶ鼻式）、二枚貝による条痕調整を施す粗製深鉢形土器等が確認されている。今後の縄文時代を考える上でも貴重な基礎資料といえよう。

弥生時代の遺跡としては浜遺跡・宮内遺跡により中期から後期にかけての土器・石器が出土しているが、遺跡の実態においては定かでないのが現状である。しかし谷水田を中心として小規模ながらも稲作が営まれていたことが予測できる。

三刀屋町においては各時代を通じ、古墳時代の遺跡がもっとも多い。それに反して鍋山地区では古墳時代の遺跡が少なく、現在確認されている遺跡は太田横穴群、下宮内古墳などである。しかし太田横穴群をはじめ、周辺地区からは多例の横穴が確認されており、今後この地区においても、さらに多数の古墳、横穴の確認される可能性を残すと考えられる。

禅定寺を軸とした仏教文化は、この地において一時期大きく開花したといえよう。七堂伽藍坊宇四十二院をかぞえる大寺院として発展した禅定寺は、その後戦乱の世にまきこまれながら次第に伽藍が縮小していったが、現在も尚、天台宗の古刹としての風格をのこしている。

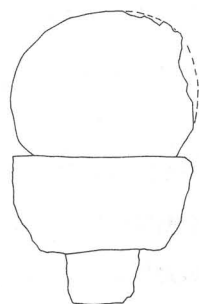
中世以降、戦乱の世になるにつれ、多くの山城が築かれていったことは、この地が交通の要地として重要な拠点であったこととともに、権力者の勢力確保のための前線基地としての役割をはたしたものと思われる。近年、中世山城研究は全国で見直されており、今後の研究に大きな期待がよせられる。

各地域の遺跡概況

大字里坊

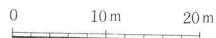
189 中古墓

禅定寺山の北麓の小盆地である里坊地区の北側丘陵に位置する。飯塚一郎氏宅の後にあたり、五輪塔の宝珠・受花部と塔身の地輪部のセットと考えられるものが確認された。地輪部はやや縦長で梵字を持ち、室町時代の作と考えられる。



221 花立十王堂跡

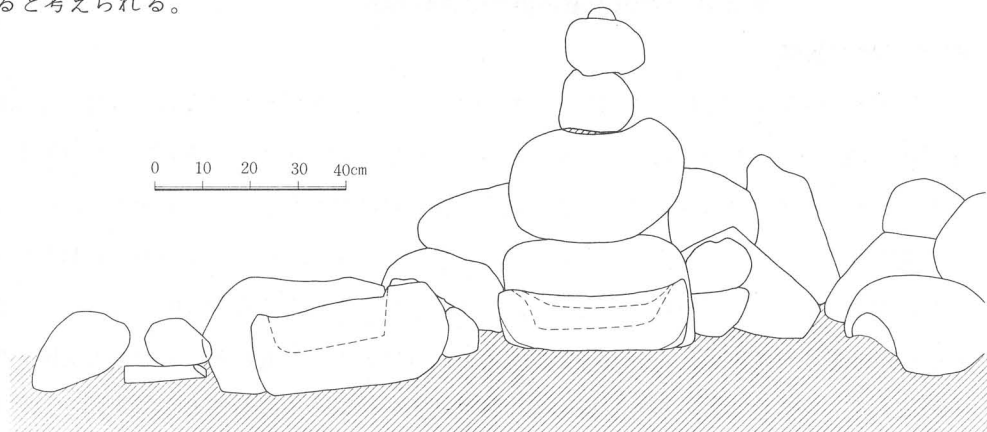
古刹禅定寺の寺領の広さをしのばせる三大門の一つである。すなわち西の大門として出雲稗原方面からの玄関口であった。しかし、尼子氏と大内氏との争いの中、数度の戦火にまきこまれ焼失した。現在は大門をしのばせるものは何もないが、この地の伝承によれば、禅定寺に参拝する際、疲れ果てて寺まで辿りつけそうもない者や高齢者が、この地より花を立てて禅定寺山を拝んだことから花立の地名がついたとされている。



222 飯塚正夫氏宅上山古墓群

第7図 中古墓五輪塔実測図

里坊でも最も北側の丘陵地に位置し、ほぼ出雲市と境を接する地点である。古墓群は五輪塔で、塔片からみると五基以上あると思われるが、ある時期に一ヶ所に集められたと考えられ、セット関係については不明である。この地は出雲戸倉城からの伝令を禅定寺に伝えたとの伝承を持つ高城城跡の北西にあたり、この古墓群はこの高城城に係わるものであると考えられる。



第2図 飯塚正夫氏宅上山五輪塔実測図

大字殿河内

94 殿河内遺跡

三刀屋町大字殿河内1007番地他に所在する遺跡である。中国電力(株)による水力発電所進入道路の建設に際して確認された遺跡であり、昭和61年度に発掘調査を実施したところ、掘立建物跡4棟(平安期ごろのもの3棟、中世のもの1棟)が検出され、さらに出土遺物としては古式土師器16片、須恵器23片、土師質土器74片、中世陶磁器17片、鉄滓が確認された。これらの出土遺物はいずれも細片、破片で、現形に復し得るものや、器形等を判断する^(注1)にはいたらないものばかりのようである。奈良・平安時代から今日に至るまで生活が断続的に及んだ居住区といえ、中世から近世にかけて、御城山城、殿河内奥城といった城跡居住区としての性格も持ちあわせていたと考えられる。

200 上殿河内遺跡

三刀屋川によって形成された河岸段丘上の遺跡で、縄文時代のものと考えられる石斧が出土している。さらに周辺により土師器片と須恵器(第3図)が確認されており、縄文時代から奈良・平安時代にかけての生活居住区であったと考えられる。



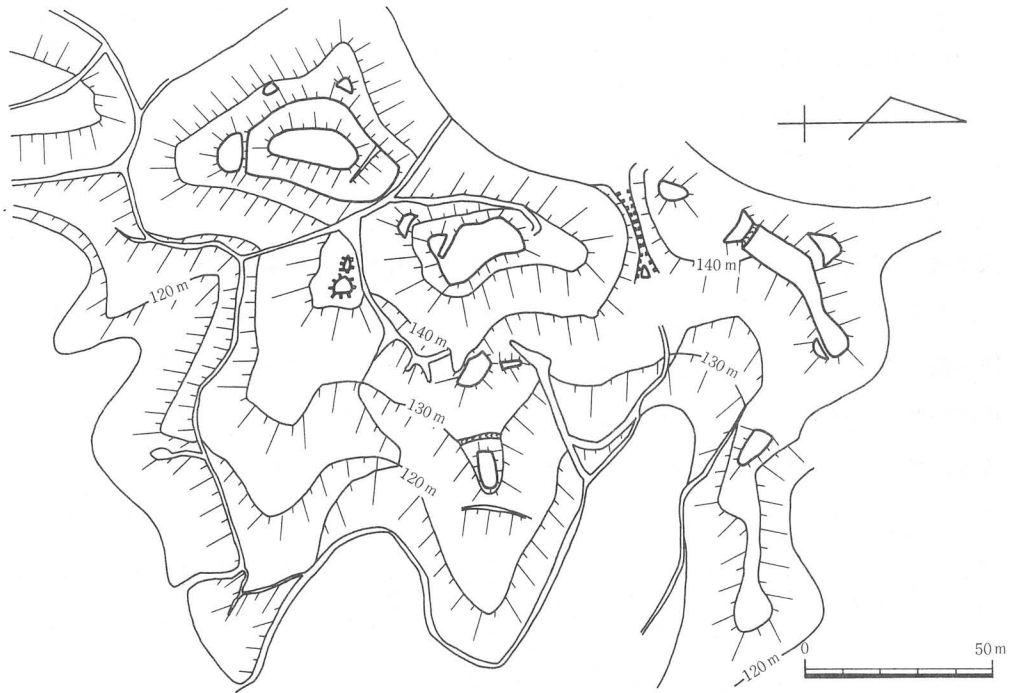
第3図 上殿河内遺跡出土遺物実測図

63 太田横穴墓群

三刀屋町大字殿河内太田で三刀屋川の右岸に位置する。圃場整備事業に伴う作業道新設工事中に偶然発見された遺跡で、昭和57年度に発掘調査が実施され、横穴2基の線密な報告がなされている。主な出土遺物は1号穴より完形品の高杯が3点、2号穴より蓋杯が10点、完形品の平瓶が1点、甕片が2点、さらに鉄片、刀子、馬具類(くつわ、鉸具)、耳環が確認されている。構築時期は出土した須恵器から、概ね古墳時代後期に該当し、7世紀前半に造営されたと考えられる。この太田横穴群は古墳時代遺跡としては鍋山地区で唯一の横穴墓として知られており、殿河内の各段丘上の水田を生産基盤とした集団の長のものと考えられる。

25 御城山城跡

現存のR54号線殿河内トンネルが作られている丘陵の突端部に位置し、標高154.7mを測る。昭和60年度に実測（一部略測）、また周辺に点在する中世遺構、さらには文献・地名・伝承等の側面からもさまざまな考察が加えられ、中世城郭としての研究・考察が行われた。それによって城郭構成は、南側尾根続きを太田峠の道と大切通しで二重に切断して(注3)おり、南北約200m、東西約100mの範囲のものであることが確認された。



第4図 御城山城縄張略図

224 奥殿河内野鉦跡

殿河内奥城跡より大字古城法正谷へ続く尾根伝いに野鉦がおこなわれていたという伝承があるが詳細は不明である。

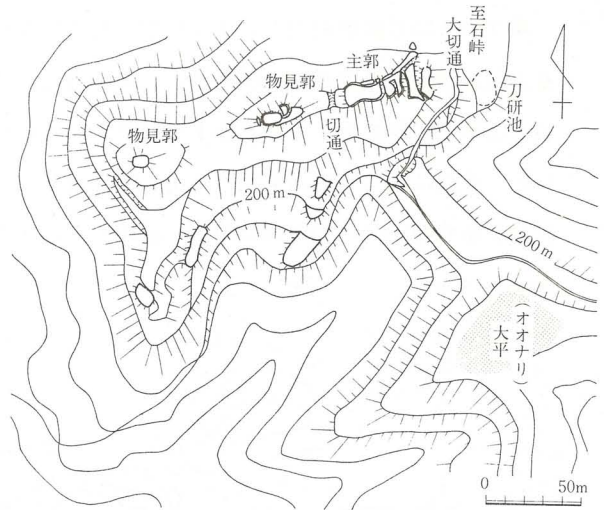
225 清水十王堂

上殿河内の出雲井神社より東へ200mの地点に位置する。すなわち禅定寺東大門跡として鍋山村誌に記録があるが、現在は五輪塔と一体の地蔵が祀られている。五輪塔の由緒は不明である。おそらく初めからここに安置されていたものではなく、禅定寺東大門跡としてその跡地に十王堂が建立され、さらに十王尚跡に五輪塔が移されたものと考えられる。横に置かれる地蔵についても、十王堂と何らかの関係があるものと考えられよう。いずれにしても、禅定寺東大門跡地として、当時の禅定寺の寺領の広さがしのばれる。

95 殿河内奥城跡

三刀屋川の支流、浜奥川の右岸の独立した丘陵の尾根上に構成されている。標高は約230m、浜奥川の谷部よりの比高は約80mを測る。

長さ約200mの尾根上はほぼ東西方向を指し、突端である西側の二つの頂部は物見郭と思われる単郭である。この物見郭より掘切を設け、5段に連なる郭群が続く。北側は崖状に急落しており、北東尾根との間を大切通しとして通路となし、北は石峠へ東方面は「オオナリ(大平)」と呼ばれる平坦地を経て殿河内の集落へ至る。大平より殿河内へ続くこの通路は途中土橋を設け、さらに3ヶ所に郭をませあわせた堀切を施してある。南西谷間へ下ると宮内浜奥から禅定寺へと続き、この南西へ下る路に対して帯状の郭も施されており、位置的にみて戦国期の支城的性格のものと考えられる。



第5図 殿河内奥城縄張略図

南西谷間へ下ると宮内浜奥から禅定寺へと続き、この南西へ下る路に対して帯状の郭も施されており、位置的にみて戦国期の支城的性格のものと考えられる。



第6図 殿河内奥城踏査図

96 清水荒神塚

大字殿河内字清水地内、妹尾氏宅（家号前新屋）の裏手の急峻な山麓に位置する。崩土によって和鏡・土師質土器10数点が確認され、さらに周辺から鉄鍋と刀の残欠3本、土師質土器がまとめて出土した。昭和61年度に埋納を確認する調査が実施されたところ、埋納擴が2穴確認され、土師質土器の細片も多数検出された。出土遺物についてはすでに詳細な報告がなされている。

(注4)

大字乙加宮

3 宮内遺跡

三刀屋川左岸の段丘上に存在し、宮内集落東側に位置する。1980年の圃場整備工事に伴い発見された遺跡で、東西100m×南北350mの範囲からは縄文土器5点、弥生土器1点、土師器片、須恵器片、土師質土器、瓦類、石庖丁、石錘等が採集されている。特筆すべきものとして布目瓦が3点出土している。少量ではあるが、遺跡の性格付けを考える上で貴重な資料といえよう。

5 槇原遺跡

槇原の集落西方の水田地で、三刀屋川によって形成された舌状の河岸段丘上に位置する。1980年に行われた圃場整備工事に伴い発見された遺跡で、東西150m×南北100mの範囲からは縄文土器の早期末から前期のものが1点、中期後葉のものが2点、後期前葉のものが4点、後期中葉のものが2点、後期のものが5点と、両面に使用痕のみえる磨石1個、石錘が7個以上出土している。

62 浜遺跡

浜の集落の東および南側の水田地で、三刀屋川の支流浜奥川が形成した扇状地に位置する。1980年の圃場整備工事に伴い発見された遺跡であり、東西125m×南北100mの範囲より縄文土器の早期後葉のもの9点、後期初頭のもの1点、晩期のもの1点、弥生土器片が1点、土師器は古墳時代前期に属する甕片と鼓形器台片がそれぞれ1点ずつ、須恵器は古墳時代から奈良時代に属するものが数点、さらに丹塗土器や石器類が出土している。

68 金屋子鈿跡

大塚の集落で灰谷川の河口に位置する。周辺より多数の鉄滓の分布が確認されたとの伝承がある。

90 鈿畑鈿跡

大字乙加宮の加食田集落にそそぐ灰谷川の中流に位置する。周辺より多数の鉄滓の分布が確認されており、小字名も鈿畑と言う。

226 浜奥川鉦跡

三刀屋川の支流で浜の集落にそそぎこむ浜奥川の右岸で、殿河内奥城の南西部にあたる。過去において多数の鉄滓が確認されているようである。

227 毛利秀麻呂墓

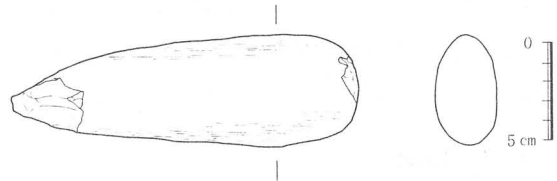
大字乙加宮の禪定寺下から根波へ向う県道出雲仁多線沿いに位置する。毛利秀麻呂がいつの時代の人物かについては不明であるが、墓碑に、「大宝二年〇観行證法禪定門十月十八日毛利秀麻呂」とあり、禪定寺に何らかの関係があるものと考えられる。

228 茗荷谷鉦跡

灰谷川の中流地点で、灰谷と茗荷谷との分岐点に位置する。灰谷川には他にも鉦畑鉦跡や金屋子鉦跡があり、鉦操業がさかんであったことがうかがえる。

229 浜奥川石斧出土地

浜奥川で確認された蛤刃磨製石斧である。長さ17.3cm・幅5.6cm・厚さ3.1cmを測る。現在は三刀屋町農村環境改善センターに保管展示がしてある。



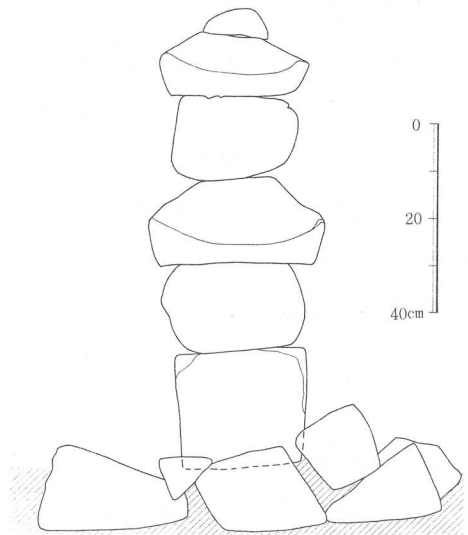
第7図 浜奥川出土石斧実測図

230 下宮内古墳

乙加宮下宮内の戸倉神社より西へ約100mの細長い丘陵の尾根上に位置する。墳形は円墳と思われ、直経約6mのものが二基確認された。築造時期を決定する資料はないが、墳丘から判断すると、概ね古墳時代後期のものと考えてよいだろう。

231 石飛忠良氏宅横古墳

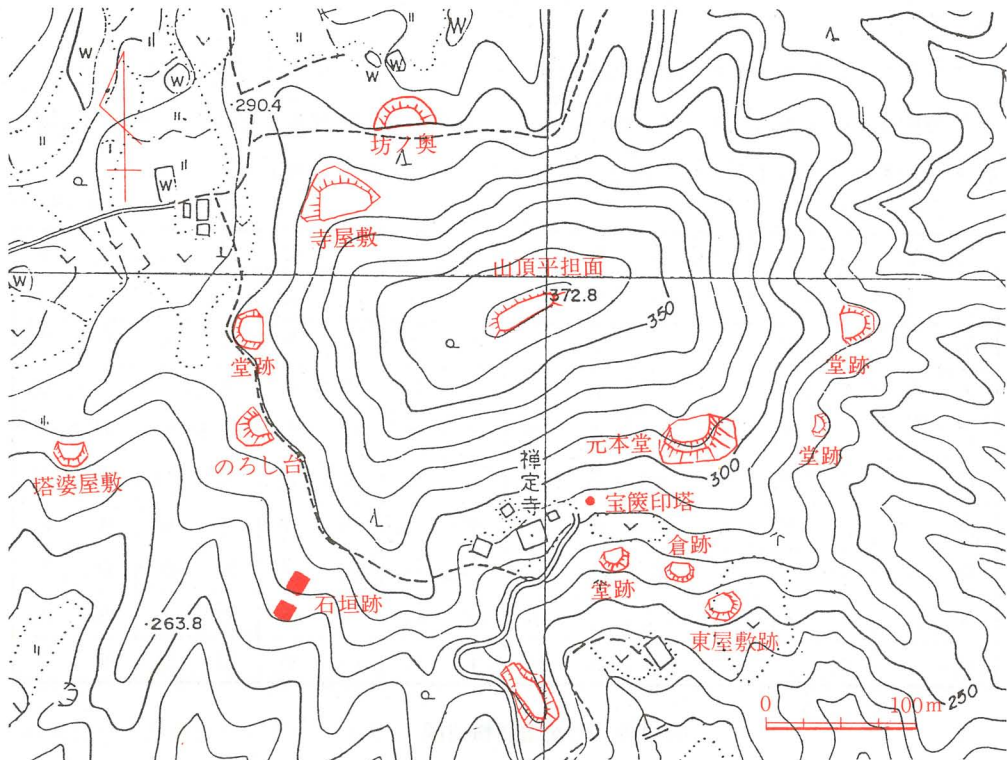
乙加宮浜の集落、石飛忠良氏宅横の畑に位置する。五輪塔が1基立っており、周辺には同様の五輪塔片が点在している。造塔している五輪塔はセット関係が極めて不自然である。おそらくこの五輪塔は二基以上存在していたものが、ある時期に無造作に集められ放置され、それを再び無作為にセット関係に直して組み合わせたものと考えられる。この地は殿河内奥域より南約1kmの地点にあたり、概ね戦国時代のこの城に何らかの関係を持つ人物の墓であると考えられる。



第8図 石飛忠良氏宅横五輪塔実測図

232 禅定寺下遺跡

禅定寺は三刀屋町大字乙加宮にある天台宗の古刹である。『出雲国風土記』に記載のある奈倍山（現在の禅定寺山）の山腹に位置し、第十番出雲札の観音霊場としても知られる。当寺に安置されている木造聖観音立像（重文）・木造阿弥陀如来座像・木造観音菩薩立像・木造勢至菩薩立像（いずれも県指定）は一木造りの出雲様式を施す仏像として知られ、製作年代は平安初期以前と考えられており、寺院建立がそれ以前のものであることがうかがえる。寺院明細帳の由緒書に、性空上人（910～1007年）が中興してから堂宇伽藍が整い、また『鍋山村誌』には「人皇四十五代聖武天皇勅願の…（中略）…七堂伽藍坊宇四十二箇院の古刹なり、依之領金坊、泉井坊、古覺坊、柳徂坊、奥野坊、清門院等の坊跡今に有之候。」とあることから平安末期には寺院として興隆し、その勢力を誇ったものと思われる。禅定寺山及びその周辺はその勢力の大きさを裏づける平坦面や石垣、石列群が多数存在する。また寺領の広さをしのぼせる三大門の位置（殿河内清水十王堂・大谷石峠権現・里坊花立十王堂跡）を明確にするに至った。さらに禅定寺は戦国時代、尼子氏と毛利氏との戦いにおいて、「小早川隆景書状」によれば「依之懸合之内氷之上禅定寺河副相抱候城面所…（中略）…落去候」とあり、当時城として機能していたものと思われる。



第9図 禅定寺周辺踏査図

禪定寺の伽藍配置

一般に境内の多くの堂宇を七堂伽藍と呼ぶ。七堂伽藍とは境内の堂宇が完備された状態のことで、金堂・講堂・塔・鐘桜・経蔵・僧房・食堂を指す。七堂は「悉堂」の語の転化であるという説があるが、「悉」とは「ことごとく」との意であり、堂宇がすべてそなえられたということになる。この制度は、すでに奈良時代には成立していたと考えられる。七堂伽藍は宗派によって建物の種類や名称は一定していない。それらの配置も時代や宗派によって様々であり、諸堂建築においても全体としてももちろんのこと、細部構造も多種多様で変化に富んだものである。

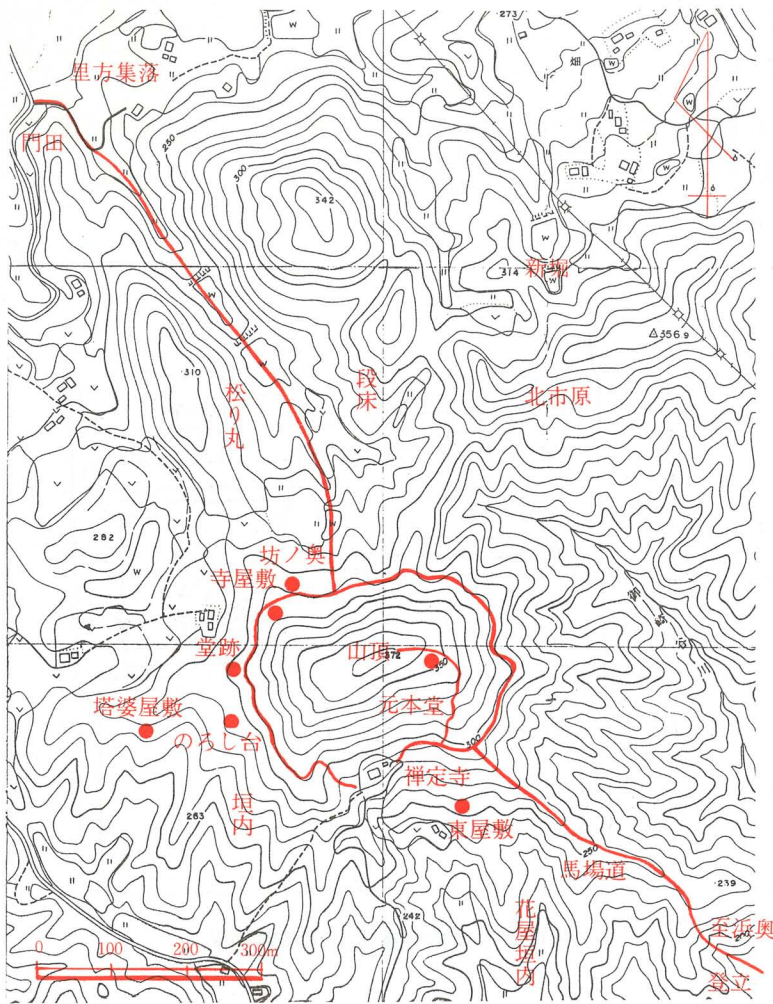
禪定寺は平安前期には寺院施設が整ったと考えられる天台宗の古刹である。天台宗は、「法華経」を基本経典として中国の天台大師、智頭によって大成された仏教の一派で、平安時代初期に最澄が日本に伝え、^(注6) 禪・戒・密教をあわせて独自の教理を展開したものである。同時代に空海によって伝えられた真言宗^(注7)とともに新仏教として確立し、また密教建築がもたらされることにより比叡山・高野山といった山地伽藍が営まれる。現在、山地伽藍の寺院発生期の唯一の遺構を残すのは奈良県の室生寺のみである。奈良時代の学問本位の寺院から修行の場の寺院として移行し、密教の影響を多分に受けたであろう古い建築を残している。

こうした新仏教の影響を出雲地方も受け、禪定寺が寺号を持つ天台寺院となったのは、寺院明細帳の由緒書に性空上人(910~1007)が中興して七堂伽藍が整い、坊舎四十二院を数えたことあり、平安末期には寺院として独立したものと考えられる。

奈良時代	塔	金堂	講堂	鐘桜	経蔵	僧房	食堂
法相	塔	金堂	講堂	鐘桜	経蔵	左堂	右堂
華嚴	五重塔	金堂	講堂	中堂	後堂	左堂	右堂
天台	相輪棕	中堂	講堂	戒壇堂	文殊桜	法華堂	常行堂
真言	大塔	金堂	講堂	灌頂堂	経堂	大師堂	五重塔
真言	五重塔	金堂	講堂	鐘桜	経蔵	大門	中門
禪宗	山門	仏殿	法堂	東司	西浄	僧堂	庫裏
禪宗	山門	仏殿	法堂	厠	寝堂	禪堂	食堂
禪宗	山門	仏殿	方塔	鐘桜	鼓桜	東方丈	西方丈
禪宗	山門	仏殿	法堂	東司	浴室	僧堂	庫院

第10図 七堂伽藍構成図

(石田茂作氏による一部加筆) (注9)



第11図 禅定寺周辺踏査図

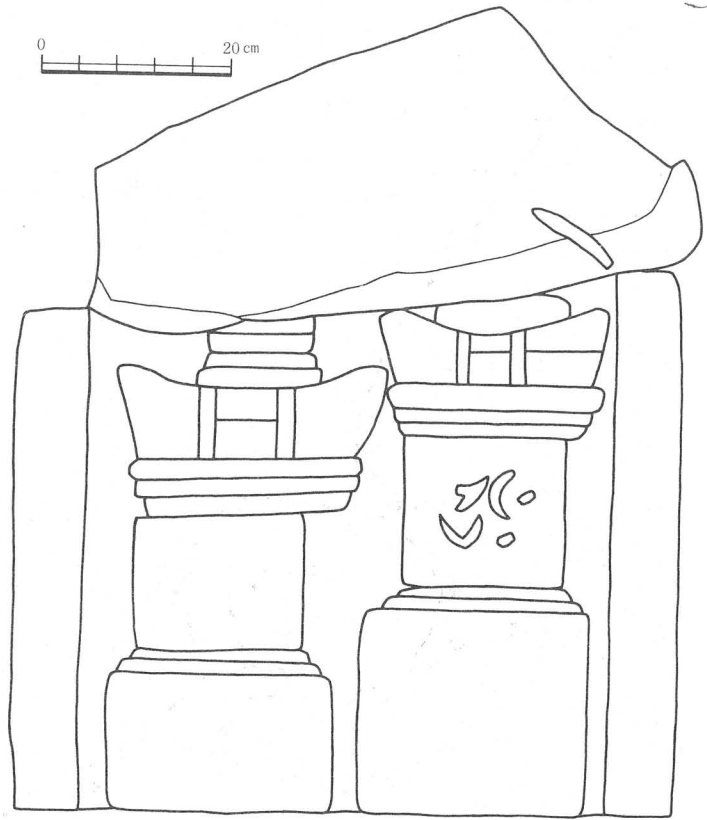
(元本堂群と呼ぶ)と、山頂の北側裾野に広がる平坦地群(坊の奥群と呼ぶ)、西側に広がる平坦地群(西群と呼ぶ)である。元本堂群は、浜奥の集落から続く「馬場道」が禅定寺山周回路と交差する地点を中心に配置されており、当時の伽藍の中心部の一つと考えられる。一方坊の奥群は、里坊集落から狭い谷筋の道と周回路が交差する地点を中心に配置されており、山裾の比較的平坦な地形を利用して、平坦地を作り出している。石積み基壇らしい遺構が見られることや、谷筋道の入口付近に「門田」という地名が残っていること、当時の幹道が北側を通っていたこと等を考え合わせると、ある時期にこの坊の奥側が正面であった可能性も考慮する必要があるだろう。西群は、小形の平坦面が数箇所認められる。石垣跡や「のろし台」という地名が残っていることから、戦火の危険にさらされた時期の遺構である可能性もある。以下それぞれの遺構について詳述したい。

配置の概略

現禅定寺は、禅定寺山の南斜面に本堂(観音堂)、薬師堂、庫裏、座王堂、仁王門を残すのみである。しかし、この禅定寺山周囲の踏査を行うと、山を山道がぐるりと巡り、その周りに点々と加工段、平担地が見られる。これが四十二坊を誇ったという禅定寺の伽藍の遺構と考えられる。これらの遺構は、大きく3群に分かれることがわかる。すなわち現禅定寺の東側に当たる元本堂を中心とする平坦地群

禅定寺 本堂東古墓

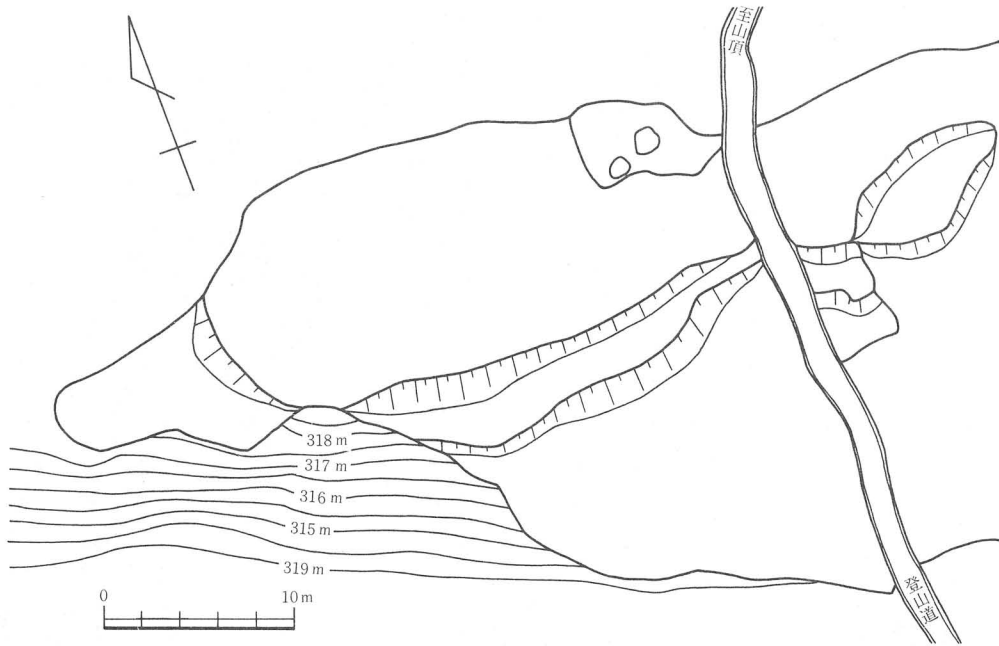
禅定寺の本堂より東へ約50mの禅定寺山山頂へ登る道筋沿いからさらに西へ入った地点に位置する。存在する古墓は宝篋印塔2基である。もともとこの地にあったものではなく、周辺に点在していたものを二基のセット関係に組み合わせている。二基ともに粗雑な作りで、笠部は隅飾突起の返りが進んでいるが明瞭な作りではなく綾線にて表現している。一基は塔身に梵字を持つ。二塔とも作りは類似しており概ね戦国時代のものであると考えよう。



第12図 禅定寺東宝篋印塔実測図

元 本 堂 跡

禅定寺山中復約320m、遠くに琴引山・大万木山などが見通せる景勝閑寂の地である。尼子氏と大内氏による戦国乱世の最中数度の焼き打ちにあい、伽藍堂宇ことごとく焼失した禅定寺の本堂が建立していたとの伝承がある地で、東西約40m・南北約25mの三段からなる平坦地が当時の面影を彷彿させる。特に上段の平坦部は東西24m・南北12mを測り、ほぼ長方形を呈する。現在のところ本堂が建立していたとの伝承を裏づける資料がないため想像の域を脱しないが、周辺からは人頭大以上の大きさの石が多数確認され、寺院施設に何らかの関係を持つものと考えられる。現在の禅定寺の境内に建てられた諸堂の中には、本堂の他に護摩堂・薬師堂・蔵王堂・子守堂・弥山堂など修験行場と受けとめられる堂名を持つものが存在することから、禅定寺の草創期は密教の影響を受けた修験の行場であったのだろう。これが後に独立した寺院として確立されていき、この地に本堂を構えていたものと考えられる。

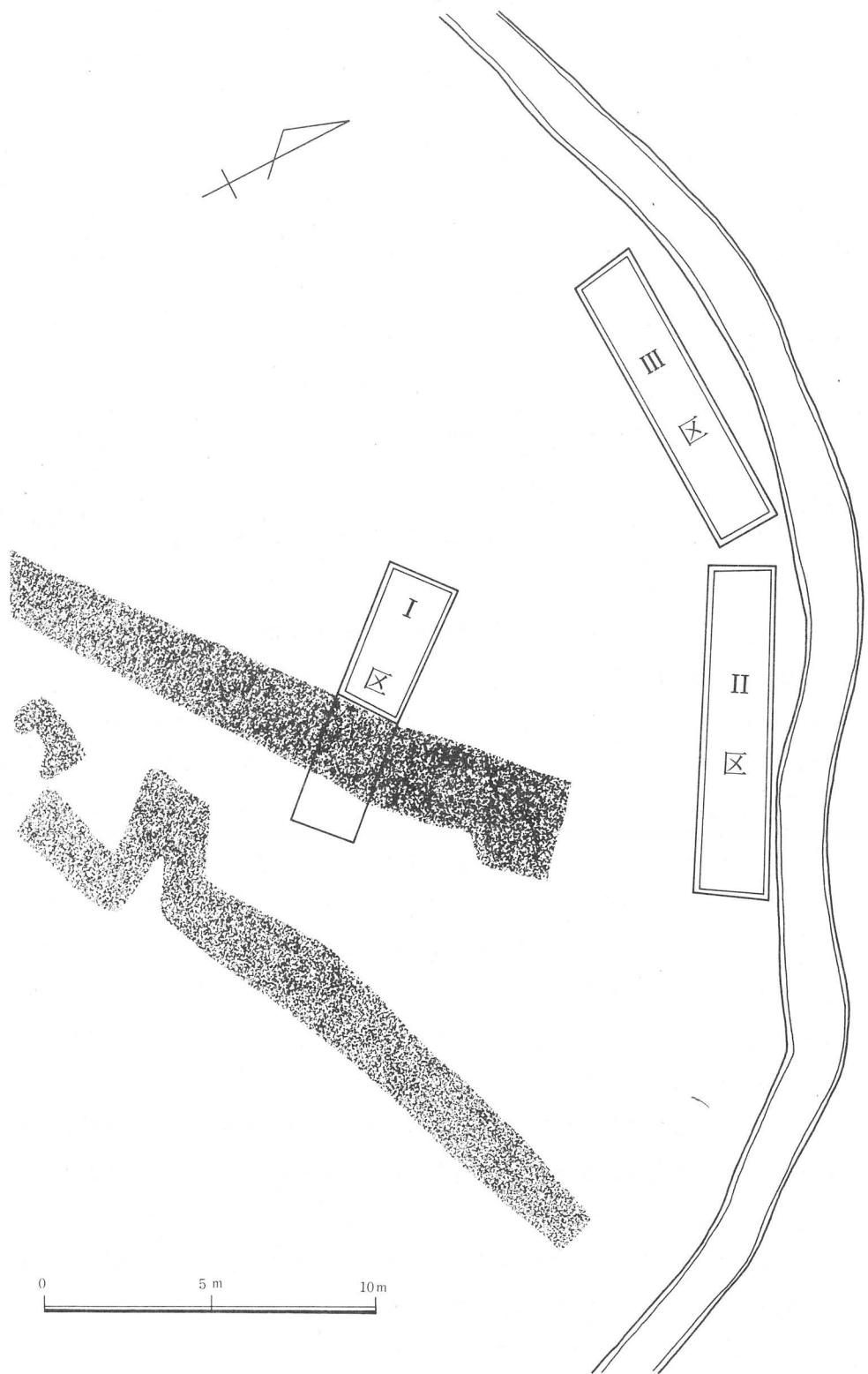


第13図 禅定寺元本堂跡実測図

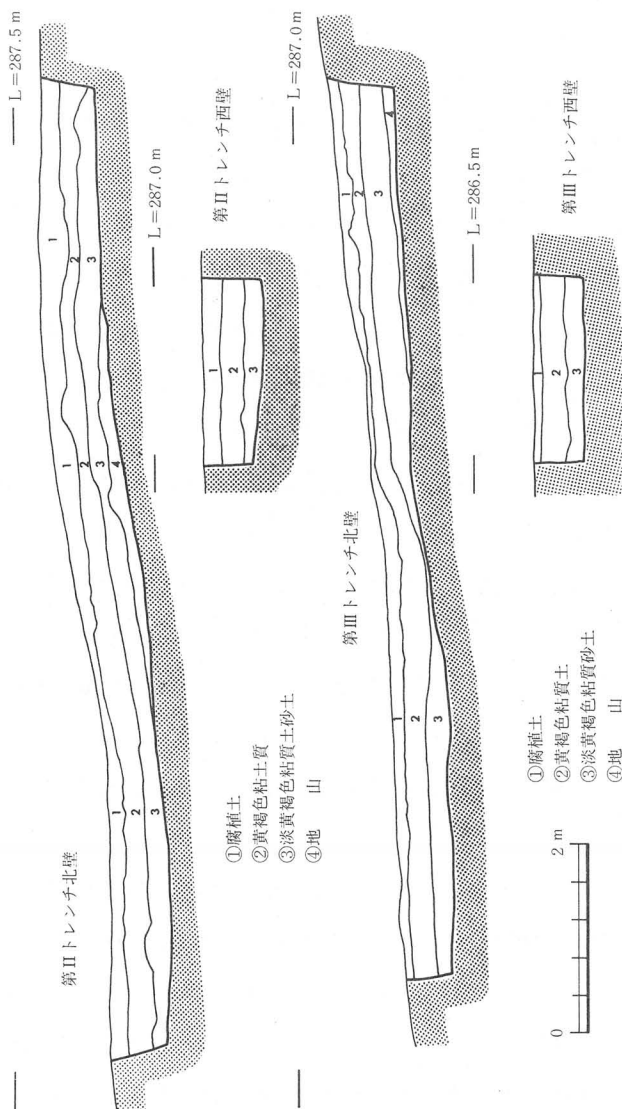
寺屋敷遺跡

禅定寺山の北西にあたり、標高約300mの眼下に里坊、遠くは出雲稗原から大社方向まで一望できる山頂中復に位置する。この地は現在の禅定寺と山を隔てて正反対にあたり、禅定寺が興隆を誇った時代の四十二坊のうちの一つでないかという考えが一般的である。それとは別に、禅定寺はもともと禅定寺山北側のふもとに建立されていたとの伝承がある。すなわち初期のころの禅定寺は現在の出雲稗原方向から参詣路が続いており、この参詣路にちなんで「花立」「灯笼田」「門田」といった地名が現存したものと考えられる。「寺屋敷」と呼ばれるこの地の周辺には、「坊ノ奥」「塔婆屋敷」「のろし台」といった寺院に関連するであろうと思われる地名が存在していることから、この伝承を裏づける手がかりと言えるのではないだろうか。

これらいくつかの根拠のもとに「寺屋敷」は禅定寺の早期段階において重要な位置を占めるとの考えに基づき、遺跡としての性格と範囲を明らかにする目的で、試掘調査を実施するに至った。この地は坊跡が存在していたと考えられる平坦部と、それに何らかの関係を持つと思われる石垣列が二段に施されており、また札打道がこの平坦地を形成する恰好を施す。したがって調査区はこの石垣列に直交する形で8m×2mのトレンチを設定しこれをⅠ区。さらに札打道に沿って10m×2m・9m×2mのトレンチをそれぞれ設定しⅡ区・Ⅲ区とした。



第14図 寺屋敷遺跡調査区配置図



第15図 寺屋敷遺跡Ⅱ・Ⅲ調査区土層図

であろうと思われたが、これを明確に判断するには至らず、石垣列の範囲と寺院遺構の可能性も否めないとして、調査を打ち切り、埋めもどしにかかった。

第Ⅱ調査期 第Ⅰ調査より北へ約8mの札打道沿いに設定した。土層は表土15cmを除去すると黄茶褐色粘質土が約20cm堆積しており、さらに下層には黄褐色粘質砂土が約20cm堆積していた。遺構・遺物の検出には至らなかった。

第Ⅲ調査期 第Ⅱ調査区の東へ同じく札打道沿いに設定した。土層は第Ⅱ調査区と同様である。この調査区は当初石垣列の続く範囲が確認されたと考えられた。調査区内に石群は検出されず、石垣列は調査区前約4mの地点まで続くものと思われる。

第Ⅰ調査区 本調査区は位置的に石垣列及び平坦地の中心部にあたり、調査範囲においてももっとも遺構・遺物を検出しようと考えられた。しかし今回の調査は遺跡の分布範囲確認のための調査であり、「寺屋敷」の全貌を明らかにする調査・考察は次回に期するものとしていた。したがって遺跡として明確な遺構・遺物を検出した場合は、ただちに調査を中断して埋めもどすことを前提とした。

調査区は石垣列部を除いた平坦部の表土約20cmを除去すると、予想どおり人頭大の石が群をなして検出された。これらの石群は、平坦部に存在していたであろうと予想される寺院(坊)跡の礎石とは考えにくく、むしろ石垣列の流出したものとする方が自然

小 結

三刀屋町の遺跡詳細分布調査は昭和62年度より今年度まで継続して行われた国庫及び県の補助事業であったが、本書において三刀屋町全地区を終了した。今年度の調査は狭い範囲ではあったが、新たに数ヶ所の遺跡が確認された。また全地区を総括するにはいまま少し時間を必要とする。

今年度調査の結果を総合すると、古代以前にさかのぼる遺物散布地は三刀屋川流域の段丘平坦地において分布が密であった。当初の考えでは里坊の集落付近から、何らかの古い遺物等の確認ができるのではないかと予測していたが、地表観察であることから縄文・弥生時代の古い遺物を検出することはできなかった。しかし、今後さらに段丘や丘陵地においては新たな知見が得られる可能性がある。

城跡についてはこの地方の地理的事情から考えても数多いことはあらかじめ予測のつくところであった。事実、昨年度の調査において20例を超える報告がなされている。本年度もさらに細密な調査を行い、昨年度報告のあった域郭に関連のある郭跡や掘切、土橋を確認した。山城築城の初期段階において社会事情の変化や戦術方法の進歩により、さまざまに工夫されたと思われる築城配置は三刀屋のじゃ山城・尾崎城との関係を考える上で非常に興味深い。(注10)

城郭とともに数多く確認できると予測できたのが禪定寺に関連した坊跡である。禪定寺は最盛期に四十二坊をも数える大寺院に発展している。そのうちの大多数の坊を戦国期の最中焼失しており、これらの焼失した坊跡をできるだけ明確に確認しようとしたが、資料収集の不手際から歴史的な裏づけを明確にするには至らず、坊跡であろうと考えられる数ヶ所を分布地図に確認するにとどめた。また禪定寺は初期の頃、出雲稗原方向を正面に建立されていたとの伝承もあり、興味深く調査を行ったが、明確な判断を下すには至らなかった。今後さまざまな見知から、さらに深い研究が進められて行くことを期待したい。

製鉄遺跡は鉄が大量の木炭と砂鉄を原料とすることからも、この地域は絶好の立地条件であるとともに交通の便もよく、また鉦製鉄の移動性などから考えても、今後更に多くの遺跡が確認されることと考えられる。

関係地域の方々には、文化財の関心が高く、情報提供や現地の道案内等、多大の協力をいただいた。今後これらの遺跡は常に地域住民の共通の文化遺産であり、考古学的な調査によって研究成果を得られるとともに、地域文化の社会教育の資料として活用されていくことを心より祈念するところである。

注

- (1) 『殿河内遺跡発掘調査報告書』 島根県三刀屋町教育委員会 昭和61年
- (2) 『太田横穴群発掘調査報告書』 島根県三刀屋町教育委員会 昭和57年
- (3) 『殿河内遺跡発掘調査報告書』 島根県三刀屋町教育委員会 昭和61年
- (4) 『殿河内遺跡発掘調査報告書』 島根県三刀屋町教育委員会 昭和61年
- (5) 『鍋山村誌』 第一号號
- (6) 『比叡山と高野山』 勝野隆信（日本歴史新書）
- (7) 『比叡山と高野山』 勝野隆信（日本歴史新書）
- (8) 『三刀屋町誌』 三刀屋町 昭和57年
- (9) 『歴史散歩事典』 山川出版社 1979年より
- (10) 『三刀屋城跡調査報告書Ⅰ～Ⅲ』 島根県三刀屋町教育委員会 昭和57年



中古墓



飯塚正夫宅上山五輪塔

图2



御城山城跡



清水十王堂



殿河内奥城跡



殿河内奥城大平（オオナリ）

图4



殿河内奥城土橋



殿河内奥城掘切



殿河内奥城掘切

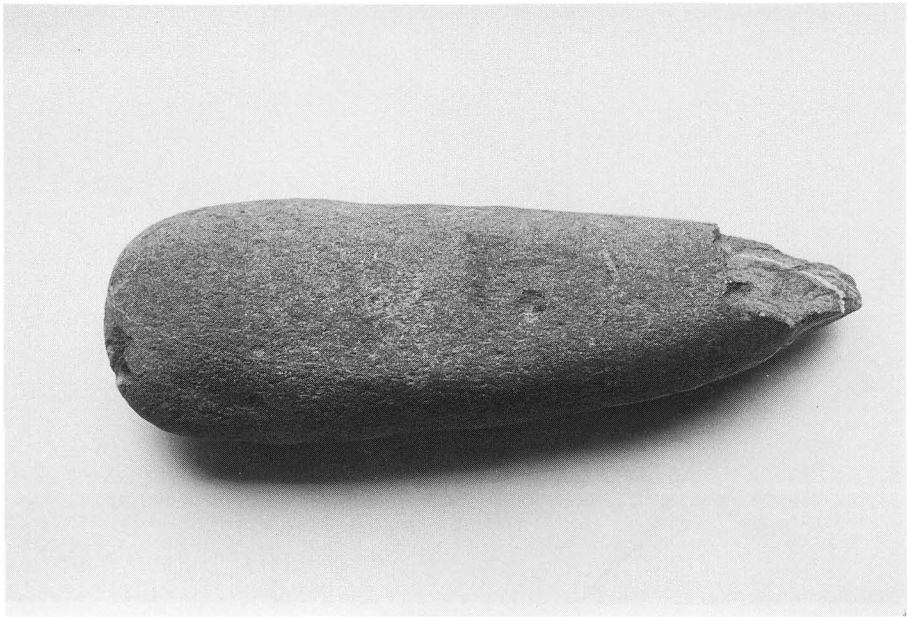


殿河内奥城刀研池

图6



毛利秀麻呂墓



浜奥川出土石斧



石飛忠良氏宅横五輪塔



禅定寺山

図8



禪定寺



花立十王堂より禪定寺山を望む



禅定寺東宝篋印塔



元本堂

図10



寺屋敷遺跡調査風景



寺屋敷遺跡調査区土層状況

詳細分布調査報告書

三刀屋町の遺跡Ⅲ

—鍋山地区(禅定寺周辺)—

発行 1991年3月

三刀屋町教育委員会
島根県飯石郡三刀屋町三刀屋944

印刷 (有)木次印刷
島根県飯石郡三刀屋町三刀屋

